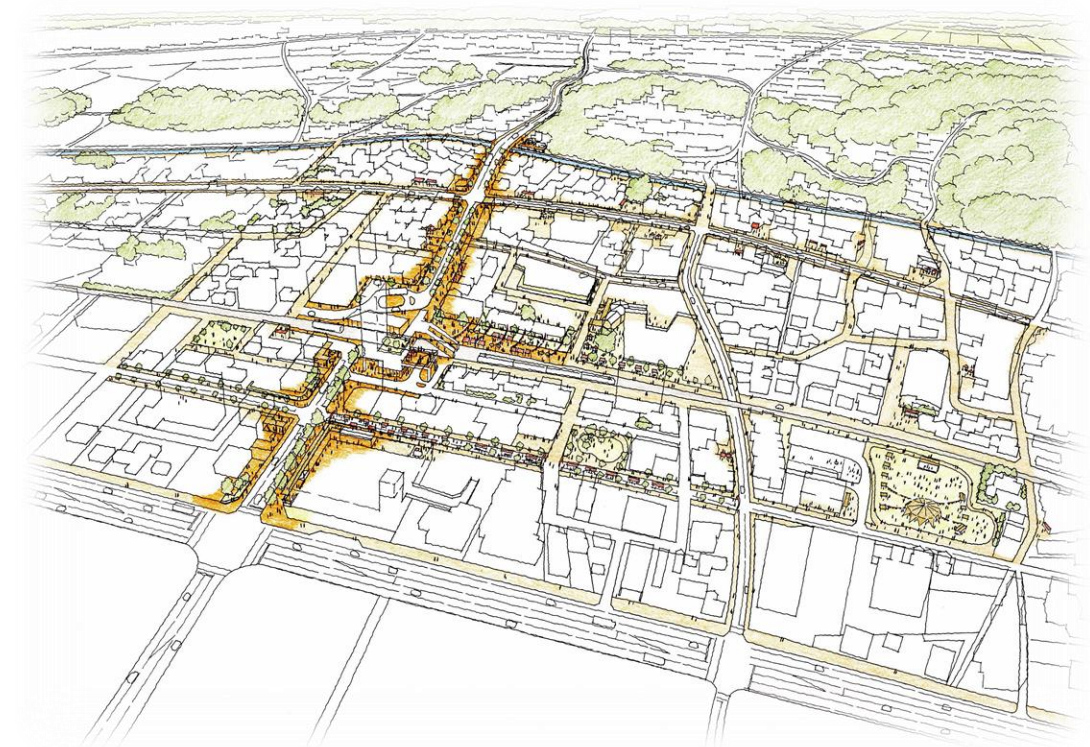


肥後大津駅周辺まちづくり基本計画

令和7年(2025年)8月
熊本県 大津町



目次

1	「肥後大津駅周辺まちづくり基本計画」について	1
	(1) 基本計画策定の目的	3
	(2) 計画の位置づけと役割	3
2	肥後大津駅周辺の現状・課題	5
	(1) 現状と課題	7
	(2) 町民意向(2024年まちづくりアンケート)	8
3	「肥後大津駅周辺まちづくり」の基本方針	9
4	空間別整備方針	13
	(1) 空間別整備方針	15
	(2) 空間別整備方針イメージパース	16
	(3) 空間別整備方針イメージパース(解説入り)	17
5	おおづ街道駅を実現する10の目標	19
	(1) 3つの基本方針とおおづ街道駅を実現する10の目標	21
	(2) 10の目標の実現に向けた取組み	22
	(3) 10の目標の実現に向けたデザインコード	35
	(4) 10の目標の実現イメージ	36
6	参考資料	37
	(1) 策定経緯	38
	(2) オープンハウス及び社会実験結果	39
	(3) 民間サウンディング調査結果	41



令和7年(2025年)7月撮影

1 「肥後大津駅周辺まちづくり基本計画」について

1 基本計画策定の目的

2 計画の位置づけと役割

1 基本計画策定の目的

大津町では、T S M Cの進出や空港アクセス鉄道の肥後大津ルート決定等の機会を最大限に生かし、これまで肥後大津駅が抱えてきた課題を解決するとともに、町の活気とにぎわいの中心であり、中心市街地でもある肥後大津駅周辺エリアの活性化に向けた将来像や、その実現に向けたまちづくりの要点等を整理した「肥後大津駅周辺まちづくり基本構想」（以下「基本構想」という）を令和6年3月に策定しました。

「肥後大津駅周辺まちづくり基本計画」（以下「基本計画」という）は、「基本構想」で定めた将来像の実現に向けて、今後の肥後大津駅周辺で進めるべき「まちづくりの施策」の方向性を示すことを目的としています。

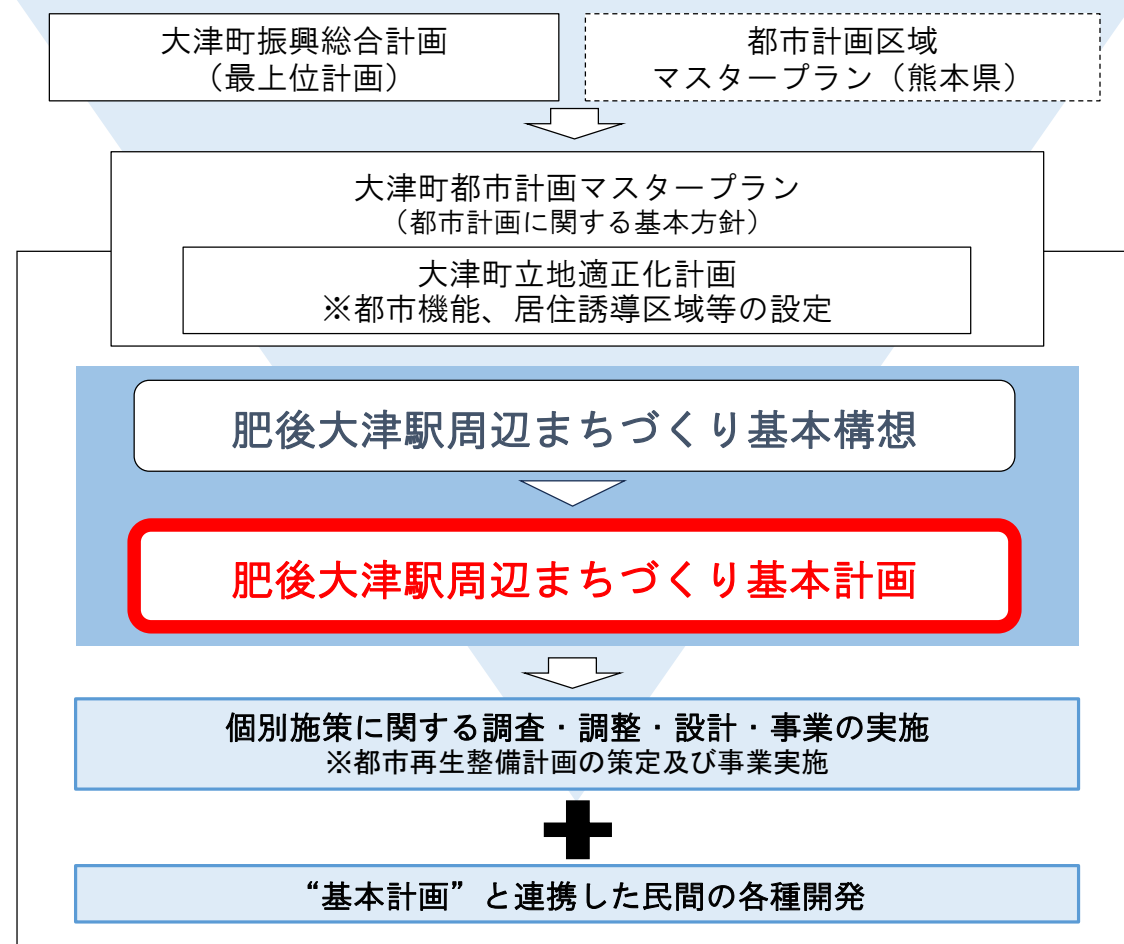
この基本計画をもとに、関係者や関係機関、民間事業者等との協議、交渉、調整等を進めることで、実現できるまちの姿を具体化するとともに、個別施策の詳細な検討を進めていきます。

なお、関係者等との協議状況や社会環境の変化等に応じて、より良く、効率的な内容となるよう、計画を適宜見直ししながら各施策に取り組んでいきます。

2 計画の位置づけと役割

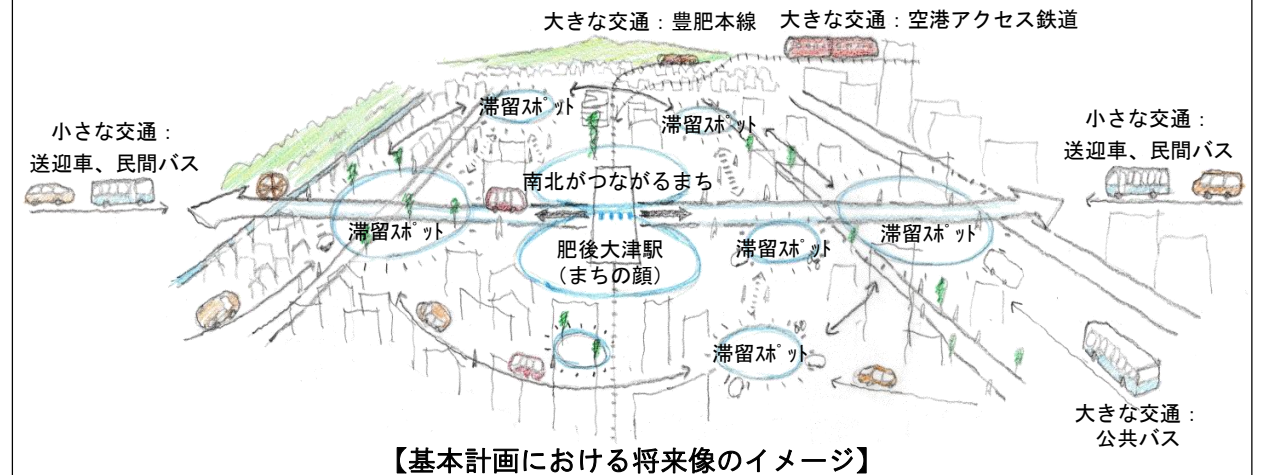
「基本構想」及び「基本計画」の駅周辺整備に係る計画は、大津町の「振興総合計画」、「都市計画マスタープラン」等を上位計画とするとともに、他の関連計画との連携も図ります。「基本構想」及び「基本計画」に基づき、個別の施策の検討を進めます。

<体系図>



肥後大津駅周辺まちづくり基本構想

- ・駅周辺まちづくりの将来ビジョン（方向性）を示す構想。
- ・現況や課題を踏まえ、駅周辺まちづくりの将来像や、将来像を実現するための要点等を整理。



肥後大津駅周辺まちづくり基本計画

- ・基本構想で定めた将来像の実現に向けて、取り組んでいく施策の方向性を示す計画。
- ・将来像の実現に向けて、まちづくりの骨格となる空間像や、必要な施設の概ねの機能、配置、規模、官民連携の考え方等を整理。
- ・基本計画をもとに、関係者や関係機関、民間事業者等との協議、交渉、調整等を進めることで、実現できるまちの姿を具体化するとともに、個別施策の詳細な検討を進める。（例えば「まちなか駐車場」であれば、収容台数や整備手法、運営手法、維持管理手法等の検討を行う。）
- ・そのため、関係者等との協議状況や社会環境の変化等に応じて、より良く、効率的な内容となるよう計画を適宜見直ししながら各施策を進めていく。

6. 第1期整備事業計画

中野駅地区整備基本計画

(1) 第1期整備の内容

【現北口駅前広場からのバス停の移設】

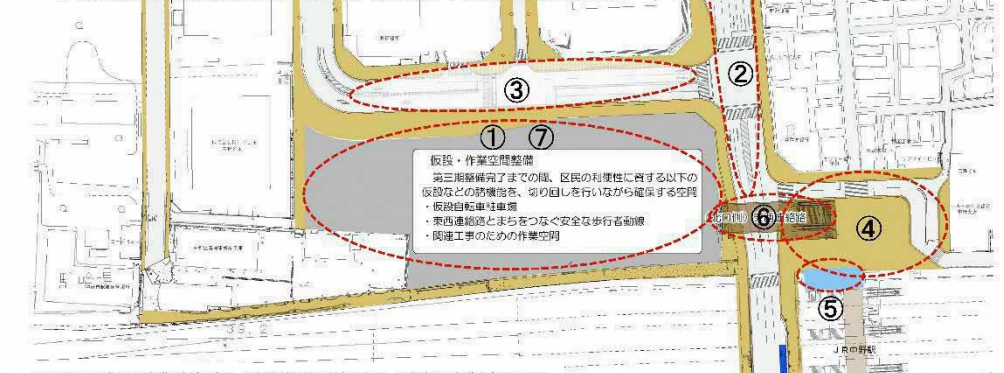
- ① 仮設整備（新北口駅前広場の自転車駐輪場等を移設）
- ② 中野通りから中野サンパザ南側への右折車線を整備
- ③ 現北口駅前広場のバス乗降所を中野サンパザ南側へ移設し、仮設バス停を整備

【現北口駅前広場を安全・安心な歩行者中心の広場に再整備】

- ④ 現北口駅前広場は歩行者中心の広場として整備
- ⑤ 中野駅北口改札を現北口駅前広場に向けて改修

【警大跡地開発に対応した中野通りの東西動線等の確保】

- ⑥ 中野四丁目と五丁目の回遊性を高める東西連絡空間を整備
- ⑦ 仮設整備（新北口駅前広場内に、警大跡地開発方面への歩行者ルートと関連工事の作業空間を確保）



※この図は、現時点での整備の想定であり、今後関係機関との調整を進め、より効率的な整備内容として行く。
※また、整備に関しては、歩行者・駅利用者の安全性を第一に配慮し、対応して行く。

【事例：中野駅地区整備基本計画】

2 肥後大津駅周辺の現状・課題

1 現状と課題

2 町民意向(2024年まちづくりアンケート)

1 現状と課題

(1)広域レベルの現状・課題

<交通結節>

- ・ 鉄道（豊肥本線・南阿蘇鉄道・空港アクセス鉄道）、高速道路（中九州横断道路）、空港が
つながる広域交通結節拠点として、観光やビジネスの入口や出口としての役割を担うことが
必要（定時性強化やポテンシャルの向上による発展の可能性が大きい）。
- ・ TSMC進出等に伴う駅利用者（外国人を含む）の増加を想定した対応が必要。

<市街地拠点>

- ・ 交通結節機能が高まる一方で、通過駅となるリスクがあり、交通結節点としての特性と都市
機能の整合を図ることが必要。
- ・ 従前からの県の東の産業拠点としての特性や、TSMCの進出に伴う産業集積の効果等を
生かし、人（定住促進）や企業（雇用創出）が「集まる場」としてのポテンシャルを更に
高めることが必要。

<周辺交通>

- ・ 様々な交通、新たな産業（就業の場）の受け皿としての機能が高まる一方で、人口増加、
物流等の増加による交通渋滞が発生。

(2)町域レベルの現状・課題

<交通結節>

- ・ 肥後大津駅周辺を中心拠点として、生活利便性の向上を図るとともに、地域公共交通により
周辺地域とのアクセス機能を強化することで、町域全体の生活利便性と都市の持続可能性の
確保に向けた取り組みが必要。

<市街地拠点>

- ・ 大津の顔を“新たに”生み出すことが重要であり、本町の特色を際立たせるような施設や機能
が必要。
- ・ 本町の中心市街地として、周辺地域からのアクセス性を強化することが必要。

<周辺交通>

- ・ 現状でも渋滞が発生している中で、空港アクセス鉄道の開通も見越した円滑な交通体系
（道路網等）の検討が必要。
- ・ 鉄道により市街地の分断が発生しており、現状の道路網体系も東西連携と比べ、南北連携が
脆弱であることから、南北道路を含めた交通体系の検討が必要。
- ・ 駅周辺（拠点）と周辺地域（市街地、集落ほか）を結ぶ公共交通体系の強化に向けた検討が
必要。

(3)地区レベルの現状・課題

◆地区レベルの現状・課題：交通結節点

<交通結節>

- ・ 駐車場・駐輪場の不足などにより、現状でも送迎車等による混雑が発生していることから、
将来的な利用者の増加等も想定した対策の検討が必要。
- ・ 各種交通機能の分断、中心拠点としての位置づけ等を踏まえながら、様々な利用者の目的
や特性等を踏まえた検討が必要。
- ・ 子どもを含む利用者の安全性を確保することが必要。

<市街地拠点>

- ・ 休憩・滞留スペースが不足しており、町民アンケートにおいてもその意見が多数。交通結節
点の強みを活かし、駅周辺の施設等が連携した滞留空間の創出が必要。
- ・ 駅舎の再整備を含めた一体的な駅機能の強化が必要。

◆地区レベルの現状・課題：駅まち空間（駅直近）

<市街地拠点>

- ・ 駅直近で休憩、滞留できる空間や機能が不足しており、駅舎、駅前広場における滞留空間
の検討が必要。
※町民アンケートにおいて、駅周辺への整備を求める意見が多い施設：広場、コンビニ、
カフェ、本屋、コワーキングスペース、宿泊施設 等
- ・ 新たなターゲット（台湾の労働者や観光客）に対応した機能が必要。
- ・ 未利用地、空きビル、空き家が分布しており、駅周辺を含めた市街地再編の検討が必要。

<周辺交通>

- ・ 鉄道により市街地が分断されており、歩行者の動線を確保することが必要。

◆地区レベルの現状・課題：駅まち空間（中心拠点）

<交通結節>

- ・ 各種交通の分断や駐車場不足といった課題について、市街地の特性を踏まえた対策の検討が
必要。

<市街地拠点>

- ・ 機能（宿泊、飲食、生活サービス等）が分散しており、都市機能、道路、歩道、滞留スペース
の配置の検討が必要（ゾーニングや機能配置等）。
- ・ 特徴ある各種都市機能が分布（駅北：県道30号沿いの商店街、公共機能、上井手（文化、
水とみどり）／駅南：大規模商業施設等）しており、県道30号や周辺店舗等と連携した
一体的な取り組みが必要。
- ・ 県道30号は歩道が無く、店舗を利用する歩行者等の移動が困難であることから、ハード・
ソフトの両方から、歩行者と車が共存し、安全な歩行空間を創出することが必要。

<周辺交通>

- ・ 歩行者の安全性が確保できておらず、歩行者動線の検討が必要。
- ・ 交通円滑化に向けた道路整備等の検討が必要。

2 町民意向(2024年まちづくりアンケート)

本計画の検討にあたっては、まちづくりアンケートの結果や、まちづくり会議の意見等の町民意向を反映しています。

①2024年まちづくりアンケート(大津町民対象)

(問) 今後、肥後大津駅周辺はどのようなエリアを目指すと思いますか。[最も当てはまると思うものに○印]

件数	比率	選択肢	グラフ
587	42.2%	町民が生活の中で利用しやすいエリア（買い物や食事ができる、休憩できる、子どもを遊ばせることができる等）	42.2%
207	14.9%	通勤・通学者が利用しやすいエリア（通勤等の合間に買い物や休憩ができる等）	14.9%
30	2.2%	働く場（オフィスなど）が充実している雇用の受け皿となるエリア	2.2%
63	4.5%	ビジネスホテルや飲食店が充実しているビジネスマンが滞在しやすいエリア	4.5%
79	5.7%	観光案内所やお土産店等が充実している観光客が利用しやすいエリア	5.7%
303	21.8%	バスターミナルや駐車場等が充実している交通の要所となるエリア	21.8%
30	2.2%	7. その他	2.2%
91	6.5%	無回答	6.5%
1,390	100.0%	計	

(問) 肥後大津駅周辺をより良いエリアとするためには、どのような機能（施設や設備など）を充実させる必要があると思いますか[上位3位の優先順位を付けて3つ選択]

1.休憩スペース（ベンチのある広場など）	104	109	95	308	1位
2.駐車場	264	190	112	566	
3.駐輪場	18	32	18	68	
4.バスターミナル	49	77	95	221	
5.送迎時の駐車スペース	162	162	111	435	3位
6.タクシー乗車スペース	3	15	24	42	
7.円滑にアクセスできる南北道路	186	127	119	432	
8.大型商店（大型スーパーやホームセンター等）	192	132	94	418	
9.小型商店（コンビニなど）	22	33	63	118	
10.カフェやファーストフード店など日中の営業が主体の飲食店	141	165	187	493	2位
11.居酒屋など夜間の営業が主体の飲食店	8	41	62	111	
12.イベントスペース	8	11	27	50	
13.宿泊施設	6	18	39	63	
14.観光案内施設	8	17	58	83	
15.子育て支援スペース（授乳室など）	13	29	41	83	
16.その他	12	4	8	24	

□1位

□2位

□3位

②肥後大津駅周辺まちづくり会議等における主な意見

区分	意見概要
駅まち空間全体	- 町の中心拠点として、町民や町外から訪れる方の交流の場となることが重要。 - 訪れた人が歩きたくなるような空間づくり、機能の誘致が重要。 - 子どもにとっても安全・安心・快適に過ごせる空間となることが重要。 - ふれあい散歩道商店街は、子どもや子育て世代にやさしい商店街を目指している。歩きながら、買い物や公園利用、散歩等を楽しんでもらえるような通りにになりたい。 - 海外の方のほとんどは、大津町を通過するだけになっていることから、どうすれば滞在してもらえるのか検討する必要がある。 - 民間開発を呼び込むことも大切だが、公共空間も有効活用しながら賑わいを高めることも重要。 - まちなかに水やみどり、歴史、文化を感じる場所が点在し、空間が繋がると良い。
道路・交通	- 送迎時の混雑や駐車スペース不足といった、現状の課題の解決も重要。一方通行化など、すぐにできる事から取り組む必要がある。 - 朝夕は送迎が多く、県道30号や駅周辺が混雑し、店舗前の無断停車などトラブルも発生している。送迎場所の確保が必要。 - 国道325号沿いにホテルの立地が進んでいる。こういった場所に宿泊する方々に大津町で楽しんでもらうためには、駅周辺の役割が非常に重要であり、バスなどで町を繋いでいくことが重要と考える。 - シェアサイクル等の新しい移動手段についても検討する必要がある。
都市機能	- 様々な方が利用する駅である中で、自由通路や橋上駅は目指すべき姿だと思う。阿蘇、空港、熊本市をつなぐ拠点の駅として、様々な楽しい体験ができる場所になると良い。高い場所から眺める阿蘇の風景は非常に魅力的。 - 大津を仕事で訪れたり、宿泊したりしても、飲食は町外でされる方も多いようだ。駅前施設などで飲食の魅力を高めることは重要。大津ならではの施設もあると良い。 - 駅周辺の整備に併せて、施設統合の視点も重要。図書館、子育て支援施設、福祉施設等の統合により、多機能施設を整備すれば、住民サービスの向上につながる。 - 海外のビジネス関係者や観光客をターゲットとした機能の誘致が必要（台湾料理店、屋台、宿泊機能など）。 - ハード整備だけでは人が訪れない場所になってしまう可能性がある。空き店舗の活用といったソフト対策との連携も重要。
まちづくりの進め方	- 町の状況が刻一刻と変化していることから、まずはソフト対策に取り組むなど、スピード感のある対応が必要。 - 民間事業者や住民による主体的な取り組みが必要。民間しかできないこともある。 - 社会実験や整備空間の暫定利用等により、まちの変化をPRすることで、まちづくりの機運を高めることが重要。 - 飲食店では、若者のアルバイトの確保が課題になっている。若者が魅力を感じ、集まりたくなるような駅周辺になると良い。 - ゴール（最終形）に到達するまでに、こういったフェーズで進めていくのかを具体的に検討する必要がある。

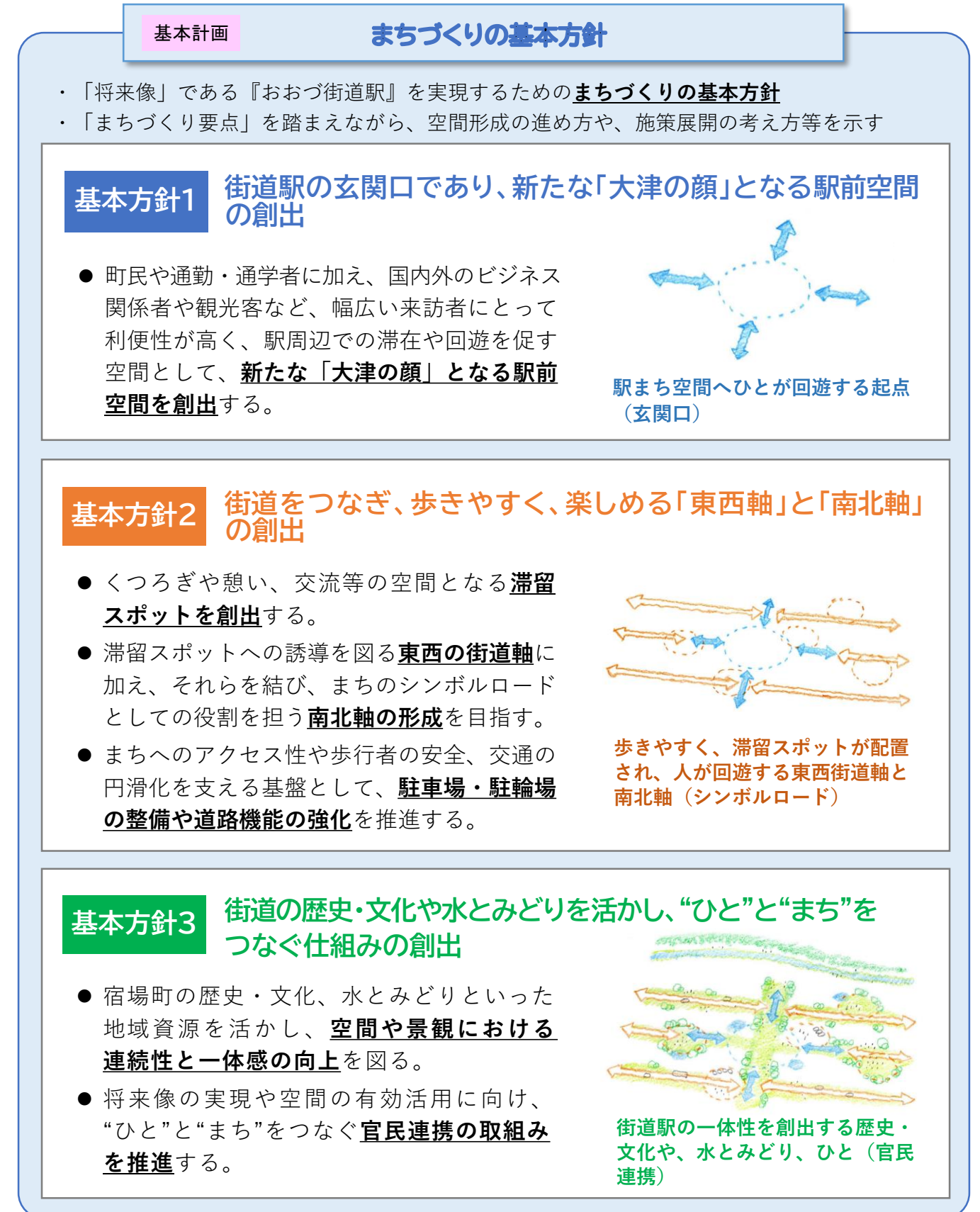
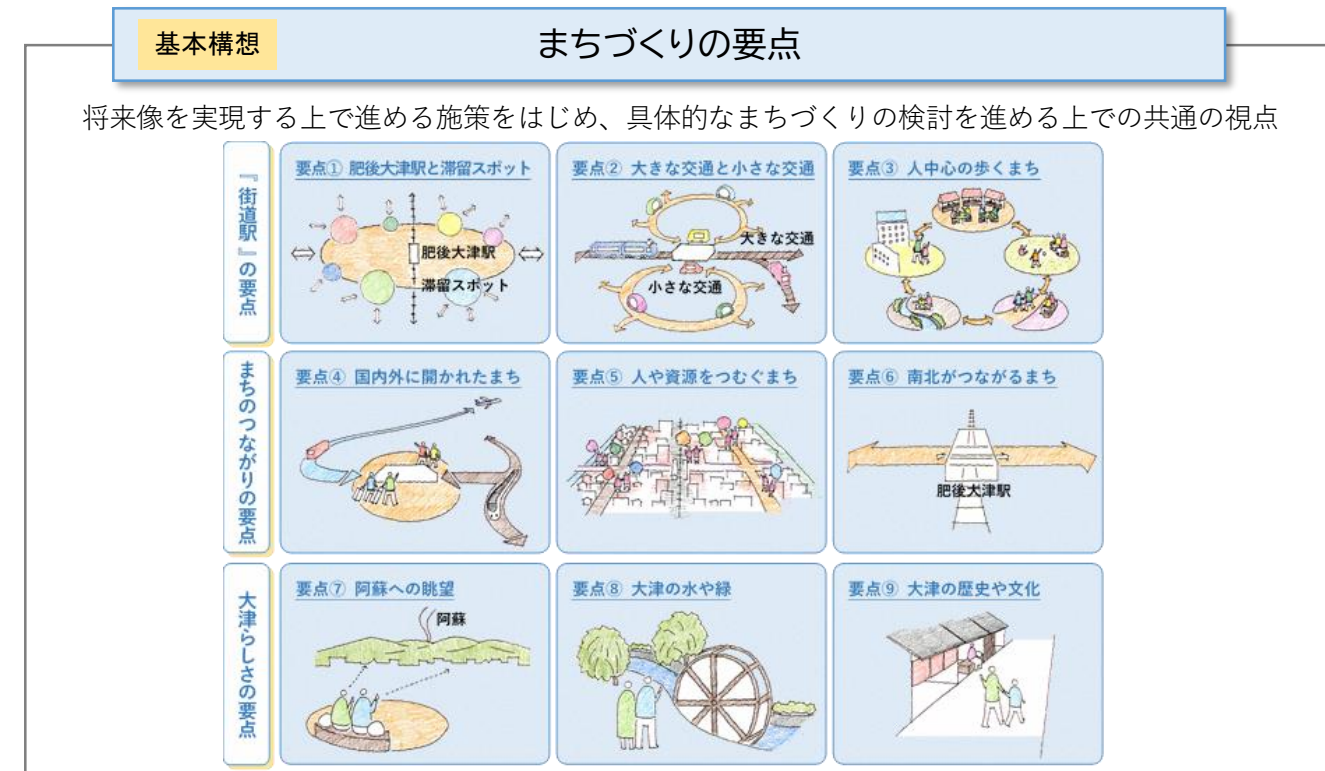
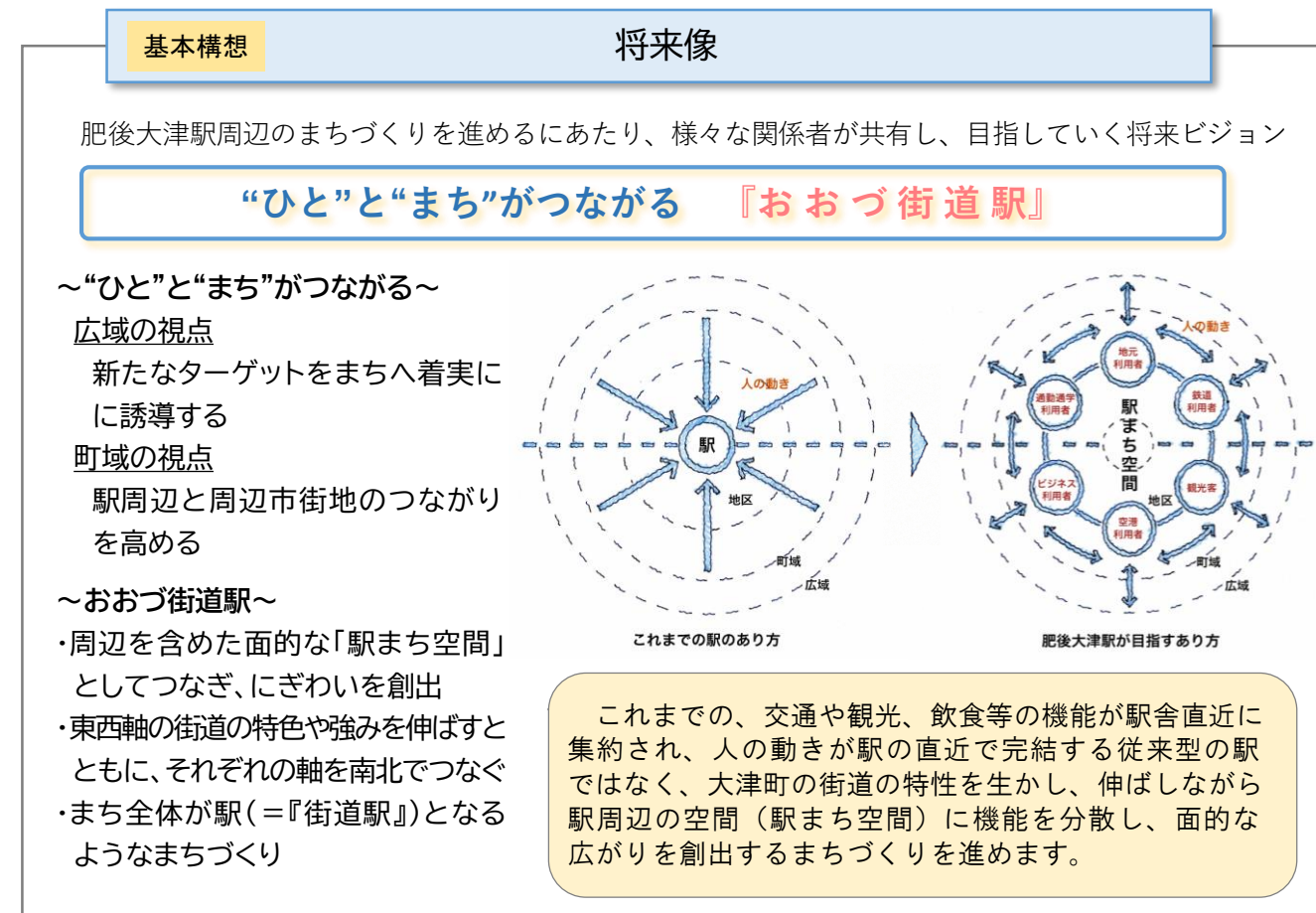


3 「肥後大津駅周辺まちづくり」の基本方針

「肥後大津駅周辺まちづくり」の基本方針

「基本構想」において、町民の交流拠点としての機能強化や利便性向上、新たな利用者もターゲットとしたにぎわいの創出等に向け、“ひと”と“まち”がつながる「おおづ街道駅」という将来像を設定しました。また、この将来像を実現していくため、まちづくりの検討を進める上での共通の視点となる「まちづくりの要点」を設定しました。

「基本計画」における『基本方針』は、将来像を具体化するために実施する施策の方針であり、この基本方針に沿って、まちづくりの要点を踏まえながら、各施策を検討、実施していきます。



4 空間別整備方針

- 1 空間別整備方針
- 2 空間別整備方針イメージパース
- 3 空間別整備方針イメージパース(解説入り)

1 空間別整備方針

まちづくりの基本方針に添って、まちづくりの骨格となる空間像や、必要な施設の概ねの機能、配置、規模、官民連携の考え方等の整備方針（方向性）及びイメージパースを示します。

<空間別整備方針の役割と留意点>

- ・「計画の位置づけと役割」に示すとおり、本計画をもとに、関係者や民間事業者等との協議、調整を行います。
- ・この中で、「空間別整備方針」は、機能やデザイン等を検討する上での基本的な考え（守るべき指針）や、将来像の実現に向けて当該機能が持つべき役割等を示すものです。
- ・具体的な施設の配置や機能、デザイン等については、関係者等との調整状況や社会環境の変化に応じて決定し、それに併せて、計画も適宜ブラッシュアップしながら個別施策を進めていきます。

まちづくり重点ゾーン(駅近接エリア)

- 大津町の顔となる駅前施設を官民連携で創出
 - 飲食・買い物等の商業機能や町民・来訪者への情報発信機能、2次交通案内機能等の導入を想定
 - 誰もが過ごしやすい施設となるよう、子育てや福祉等の視点から、機能や設備等の導入を検討
- 南北連携を高める自由通路や橋上駅を関係者と連携のもと整備
- バス停やタクシー乗場、企業や一般車の送迎時の一時待機所等に対応する駅前広場（駅北・駅南）の機能強化

まちづくり重点ゾーン(駅北エリア)

- まちなかの集約駐車場（立体駐車場）の整備
 - 鉄道やバス利用者のみならず、周辺の飲食店や公共施設利用者等の利用を想定
 - 官民連携による整備、利用形態、維持管理手法等を検討
 - 駅や周辺の飲食店、役場等へのアクセス性の観点から配置場所を検討
- 利用者の利便性向上や土地利用、長期的な維持管理コスト等の観点から、公共施設の機能強化や集約を検討

東西軸(県道30号、マイロード、ふれあい散歩道)

- 電柱の配置見直し（裏配線方式等）により、沿道の飲食店利用者等が歩きやすい空間を創出
- 通りと公園、民有地が連携し、休憩スペース（ベンチの配置等）や屋台、マルシェ等の滞留スポットを創出
- 滞留スポットの配置や阿蘇への眺望に配慮した回遊空間を創出することで、図書館や中央公園への誘導力を強化
- 安全性・快適性の強化やにぎわい創出につなげるため、道路の一方通行化や時間帯規制等を検討

南北道路強化の検討

- 空港アクセス鉄道の詳細ルート決定後に具体化

まちづくり重点ゾーン(駅南エリア)

- 歩道（公共空間）と民地空間の連携による滞留スポットの形成
 - 歩きやすい歩行空間を創出するとともに、キッチンカー（飲食）や駐輪場（交通）、ベンチの配置による休憩スペース等としての活用を検討
- 公共用地を活用した民間施設誘導や官民連携の土地利用検討

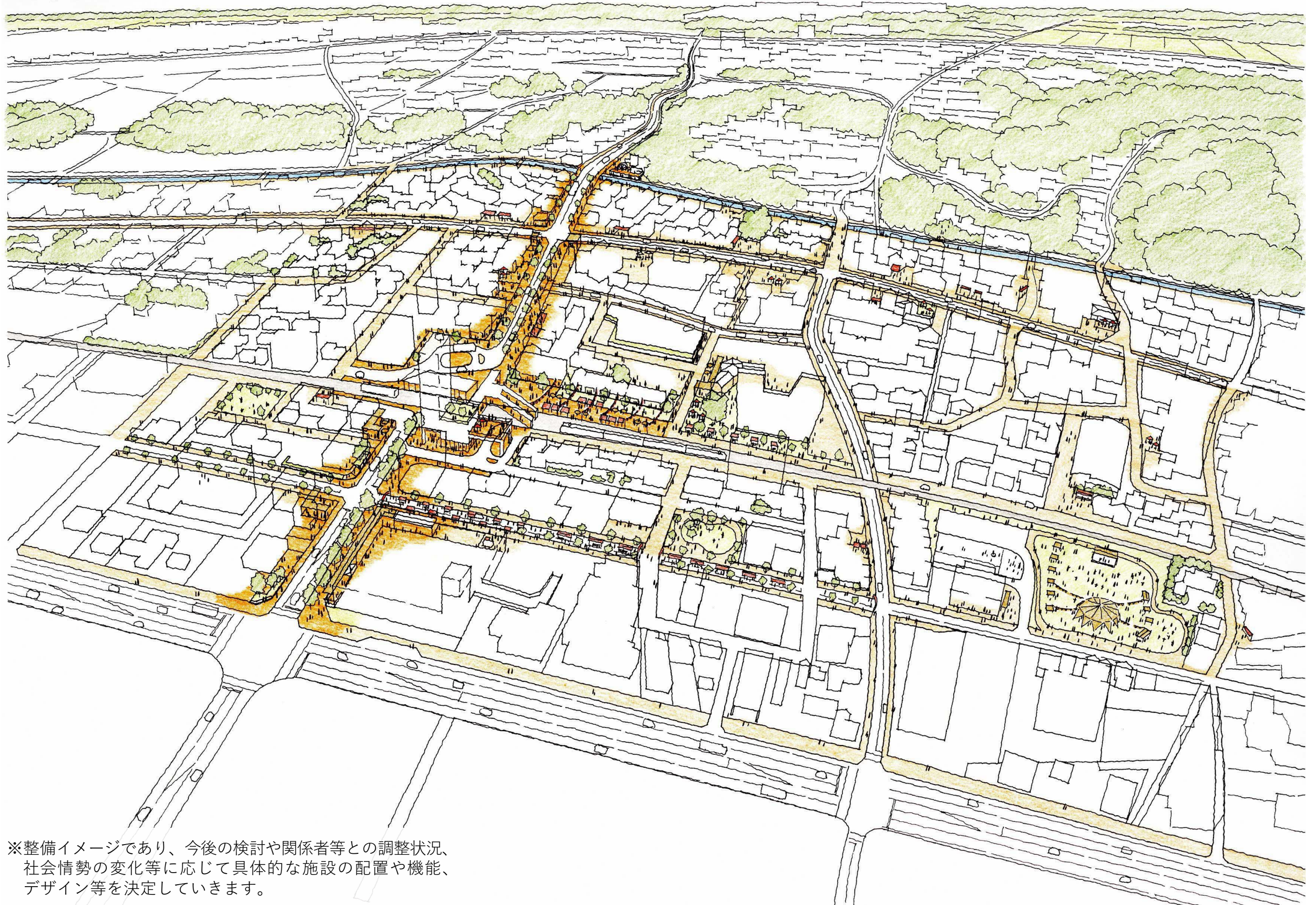
南北軸(シンボルロード)

- 東西の街道へ、人やにぎわいの流れを促すことで、駅と駅まち空間をつなぎ、回遊性を高めるシンボリックな空間を創出

駅まち空間全体での取組み

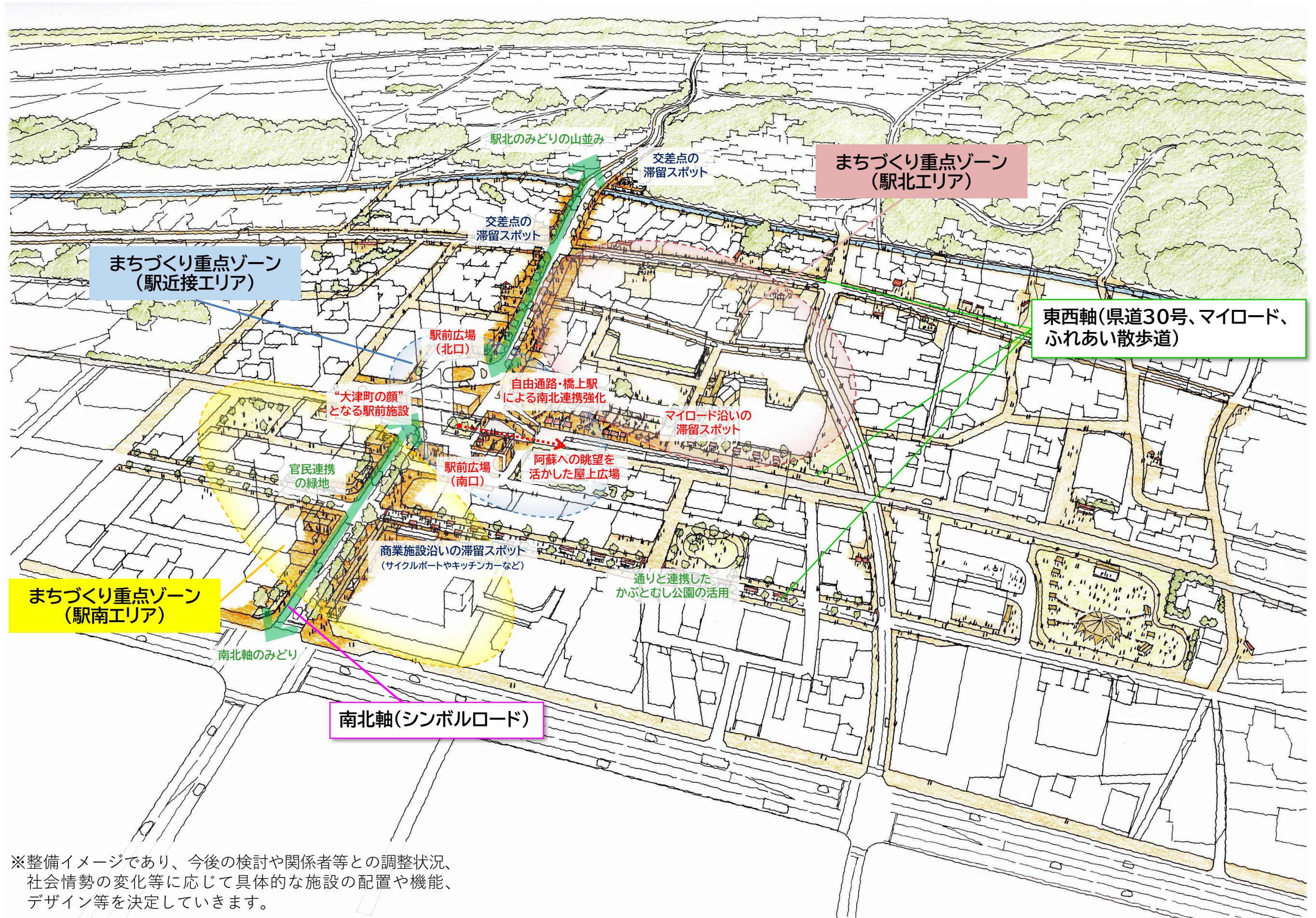
- 宿場町の歴史・文化や水とみどりを活用し、空間や景観の連続性や一体感を向上
- 将来像の実現、空間の有効活用に向け、“ひと”と“まち”をつなげる官民連携の取組みを推進
- 子どもや高齢者、障がいのある方、海外の方など、誰もが過ごしやすいインクルーシブな空間を創出
- 民有地とも連携しながら、駐車場や駐輪場、シェアサイクルステーションをまちなかに適正に分散配置することで、車両と歩行者の交錯を抑制
- 駅に近いという特性を活かし、滞留を促すカフェ・飲食店や、滞在の起点となる宿泊施設、雇用の受け皿となるオフィス等を誘導

2 空間別整備方針イメージパース



※整備イメージであり、今後の検討や関係者等との調整状況、
社会情勢の変化等に応じて具体的な施設の配置や機能、
デザイン等を決定していきます。

3 空間別整備方針イメージパース(解説入り)



5 おおづ街道駅を実現する10の目標

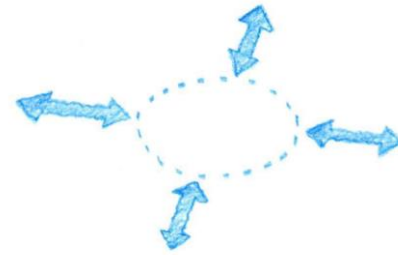
- 1 3つの基本方針とおおづ街道駅を実現する10の目標
- 2 10の目標の実現に向けた取組み
- 3 10の目標の実現に向けたデザインコード
- 4 10の目標の実現イメージ

1 3つの基本方針とおおづ街道駅を実現する10の目標

基本方針1

街道駅の玄関口であり、新たな「大津の顔」となる駅前空間の創出

- 町民や通勤・通学者に加え、国内外のビジネス関係者や観光客など、幅広い来訪者にとって利便性が高く、駅周辺での滞在や回遊を促す空間として、**新たな「大津の顔」となる駅前空間を創出**する。

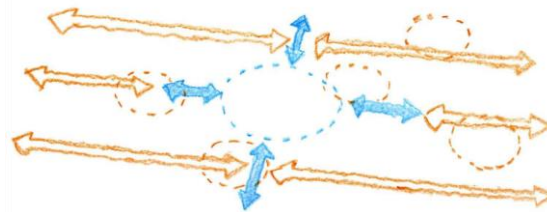


駅まち空間へひとが回遊する起点（玄関口）

基本方針2

街道をつなぎ、歩きやすく、楽しめる「東西軸」と「南北軸」の創出

- くつろぎや憩い、交流等の空間となる**滞留スポットを創出**する。
- 滞留スポットへの誘導を図る**東西の街道軸**に加え、それらを結び、まちのシンボルロードとしての役割を担う**南北軸の形成**を目指す。
- まちへのアクセス性や歩行者の安全、交通の円滑化を支える基盤として、**駐車場・駐輪場の整備や道路機能の強化**を推進する。

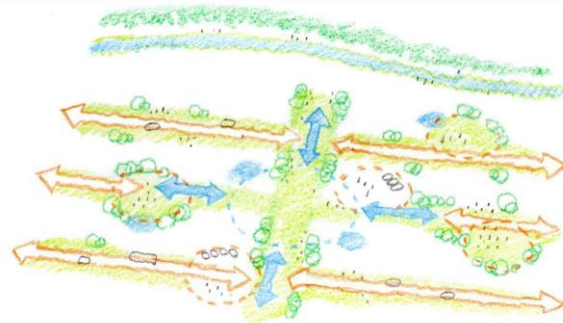


歩きやすく、滞留スポットが配置され、人が回遊する東西街道軸と南北軸（シンボルロード）

基本方針3

街道の歴史・文化や水とみどりを活かし、“ひと”と“まち”をつなぐ仕組みの創出

- 宿場町の歴史・文化、水とみどりといった地域資源を活かし、**空間や景観における連続性と一体感の向上**を図る。
- 将来像の実現や空間の有効活用に向け、“ひと”と“まち”をつなぐ**官民連携の取組みを推進**する。



街道駅の一体性を創出する歴史・文化や、水とみどり、ひと（官民連携）

おおづ街道駅を実現する10の目標

方針1

方針3

目標1：おおづの玄関口にふさわしい、顔となる駅前空間の創出

▶町の第一印象となる駅前において、町民や来訪者にとって快適で魅力的な空間を形成します

方針1

方針2

方針3

目標2：安全で快適に南北がつながる動線と駅機能の確保

▶駅を中心とした南北の往来を円滑にし、誰もが安全かつ快適に移動できる動線と駅機能を確保します

方針1

方針2

目標3：誰もが使いやすく、過ごしたくなる駅前広場の再編

▶交通機能と滞在機能を兼ね備えた、使いやすく過ごしやすい駅前広場を再構築します

方針2

方針3

目標4：回遊性と滞留性を高める拠点の形成

▶まちなかにおける人の流れと滞留の場をデザインし、各街道の特性や地域全体のにぎわいを高めます

方針2

方針3

目標5：官民連携による街道空間の機能と魅力の向上

▶歴史ある街道の価値を活かしつつ、暮らしやすく、まちづくりや商業、観光等の活動が盛んな街道を地域で一体となって創り出します

方針2

目標6：歩行者を中心とした、安全で快適な交通環境の構築

▶誰もが安心・快適に楽しく歩ける空間の創出を目指し、道路空間の再編や交通環境の見直しについて検討します

方針1

方針2

方針3

目標7：目的地へのアクセスを円滑にする交通・駐車スペースの確保

▶駅前・まちなかへの円滑なアクセスを確保するため、公共交通の機能を強化するとともに、利便性の高い駐車場やスペースを整備します

方針1

方針2

方針3

目標8：おおづらしさを表現する景観ルール、デザインの創出

▶大津の魅力を継承し発展させるため、全体性と一貫性を持ったルールやデザインを検討します

方針1

方針2

方針3

目標9：歴史・文化、水とみどりを活かしたまちなみの形成

▶文化資源や自然を空間的につなぎ、一体感のあるまちなみ景観を形成します

方針3

目標10：“ひと”と“まち”をつなぐ複合施設の整備

▶多世代が利用し、交流が生まれる拠点として、地域に根ざした複合施設を整備します

2 10の目標の実現に向けた取組み

- ・ 10の目標の実現に向けた取組みを整理します。
- ・ 想定される施策や整備の内容、取組みの方向性、他地域の参考事例などを示します。

【ページ構成】

空間別整備方針イメージパース



取組みの方向性（想定される手法や進め方など）

取組みの方向性：駅前施設の誘致に向けた検討手順

➤ 官民連携による駅前施設の整備に向けて、想定される検討の流れ



検討項目	概要
① 施設整備計画の検討・策定	・ 施設整備の基本条件、方針の整理 ・ 民間へのサウンディング調査 ・ 施設の概略検討（機能、規模等） ・ 整備に向けたロードマップの作成 ・ 概算事業費の算出 等
② 導入可能性調査の実施	・ 事業スキームの検討（事業範囲、事業期間等） ・ 民間事業者の意向調査（参入意向、参入条件など） ・ 概算費用の算定（基本計画の精査） ・ 事業手法の整理・検討 ・ 評価結果のまとめ ・ 事業スケジュールの設定 ・ 想定される課題と対応策の検討 等
③ 事業者選定	・ 民間事業者公募に向けた資料作成 ・ 事業者選定、手続きの調整、検討 ・ 事業者の選定及び契約手続き 等
④ 設計・施工	・ 設計、施工、維持管理、運営のモニタリング 等

（資料：「PPP／PFI導入可能性調査簡易化マニュアル（内閣府）」を参考に作成）

他地域の参考事例

参考事例：駅前施設

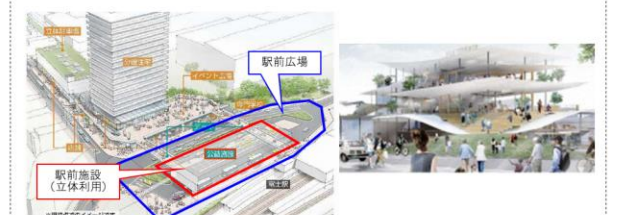
【事例】おんがみらいテラス：遠賀川駅舎に併設した公共施設



- 自由通路に併設した駅前施設を官民連携で整備
- 3階で橋上駅に直結
- カフェ等の飲食機能や、休憩集会ができる多目的室、キッズスペース、テラス等を配置

（出典：遠賀町HP）

【事例】富士駅北口駅前広場の立体利用



- 自治体が主体となって駅前広場を整備
- 自由通路、橋上駅の整備にあわせて、駅前広場を立体的に活用し、駅前施設を配置
- 歩行者動線の確保やにぎわいの拠点空間を創出

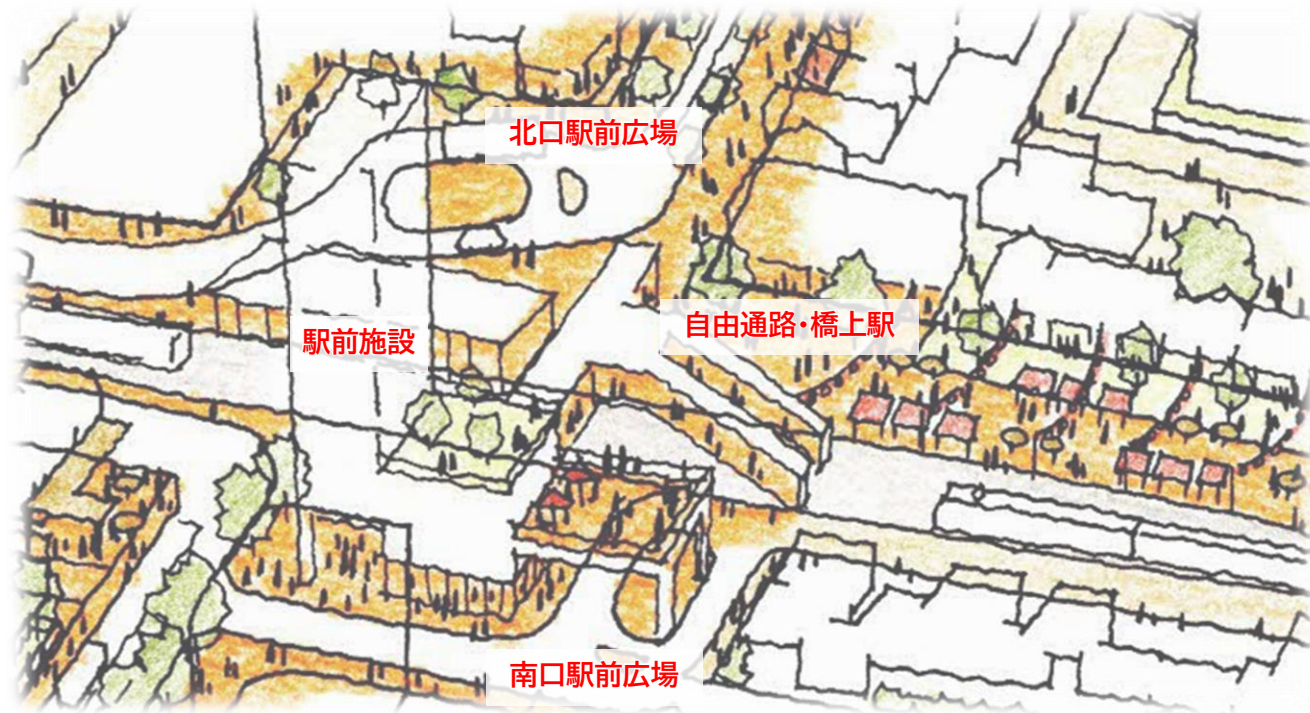
（出典：富士駅北口都市機能整備構想）

10の目標

「10の目標」の実現に向けて 想定される取組み

取組みを踏まえた空間活用イメージ

2 10の目標の実現に向けた取組み



目標1：おおづの玄関口にふさわしい、顔となる駅前空間の創出

▶町の第一印象となる駅前において、町民や来訪者にとって快適で魅力的な空間を形成します

【想定される具体の取組み】

- ・官民連携による駅前施設の整備
- ・民間誘致に向けた調査協議
- ・各種機能の導入検討
 - 町民や国内外のビジネス関係者・観光客からのニーズが高い、休憩、飲食、交流、学習スペース、宿泊機能等の導入を検討
 - 誰もが過ごしやすい施設となるよう、子育てや教育、福祉等の視点から、機能や設備等の導入を検討
- ・PPP、PFI事業など官民連携事業の検討

目標2：安全で快適に南北がつながる動線と駅機能の確保

▶駅を中心とした南北の往来を円滑にし、誰もが安全かつ快適に移動できる動線と駅機能を確保します

【想定される具体の取組み】

- ・利用しやすさや景観（阿蘇への眺望）等に配慮した自由通路の整備
- ・関係機関との連携による橋上駅の整備

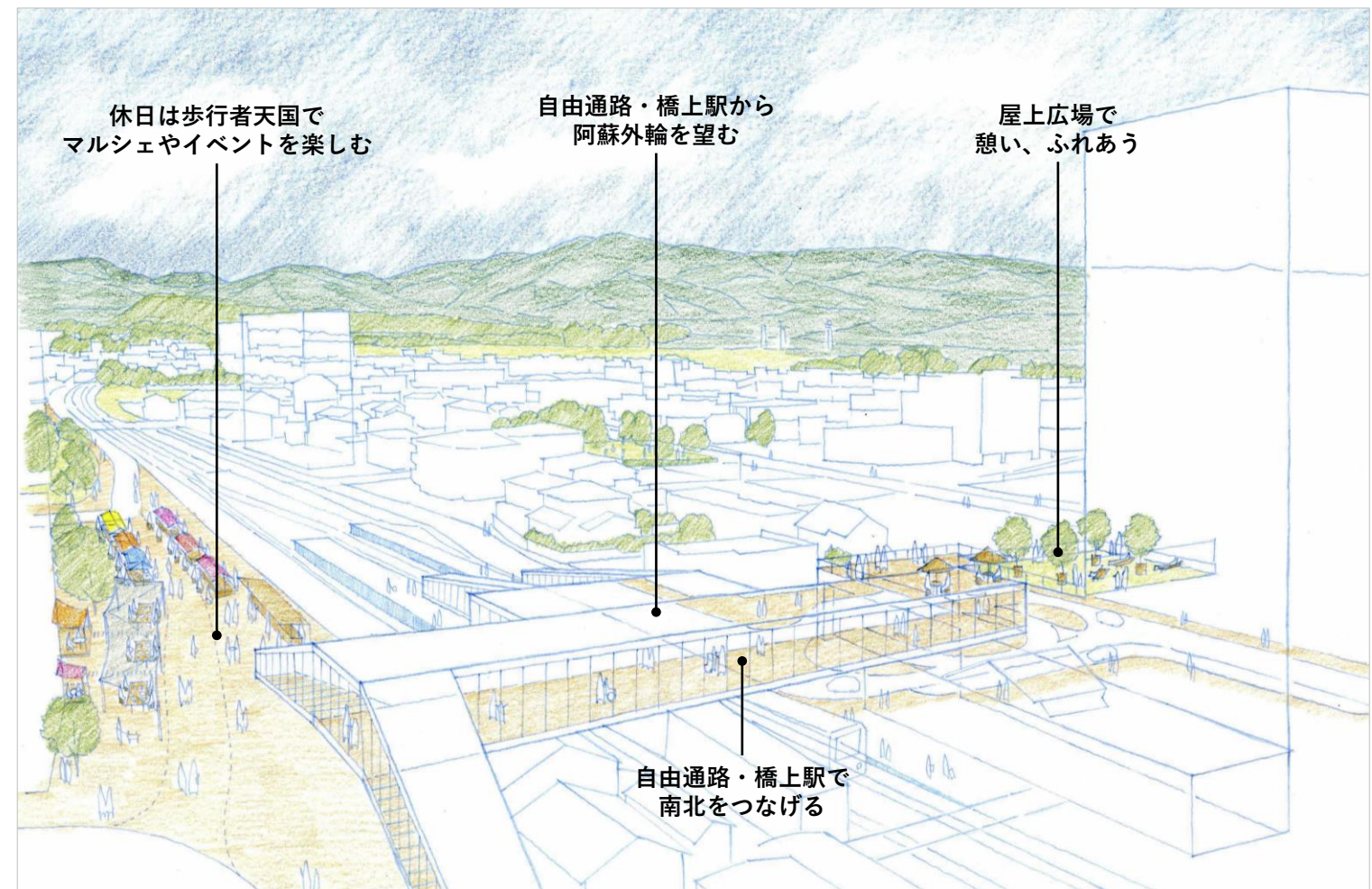
目標3：誰もが使いやすく、過ごしたくなる駅前広場の再編

▶交通機能と滞在機能を兼ね備えた、使いやすく過ごしやすい駅前広場を再構築します

【想定される具体の取組み】

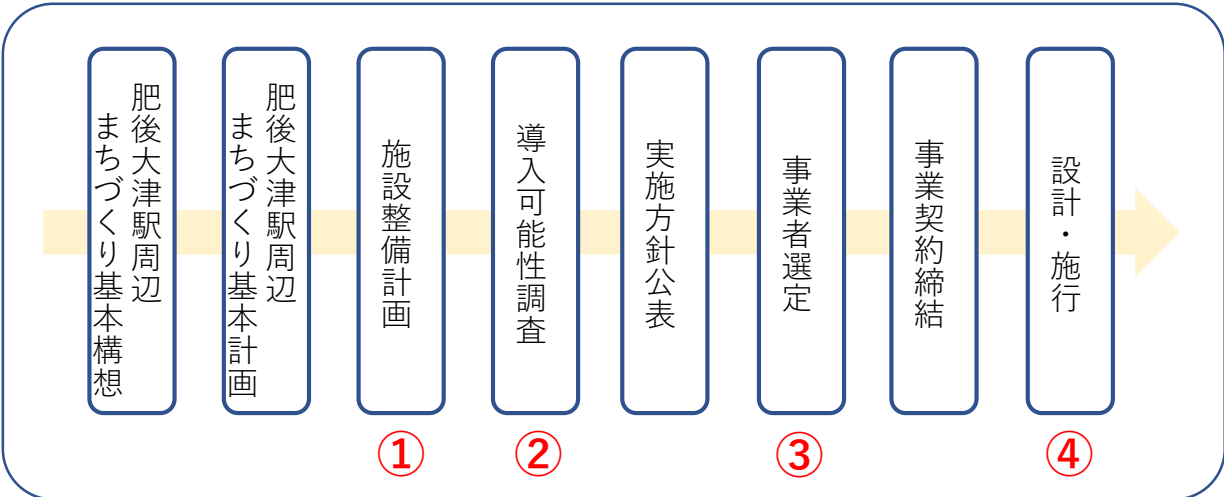
- ・北口駅前広場及び南口駅前広場の再整備（機能強化）
- ・周辺との一体性、連続性を確保することで、滞留スポットとなる広場機能を創出

<空間活用のイメージ>



取組みの方向性:駅前施設の誘致に向けた検討手順

➤ 官民連携による駅前施設の整備に向けて、想定される検討の流れ



検討項目	概要
① 施設整備計画の検討・策定	- 施設整備の基本条件、方針の整理 - 民間へのサウンディング調査 - 施設の概略検討（機能、規模等） - 整備に向けたロードマップの作成 - 概算事業費の算出 等
② 導入可能性調査の実施	- 事業スキームの検討（事業範囲、事業期間等） - 民間事業者の意向調査（参入意向、参入条件など） - 概算費用の算定（基本計画の精査） - 事業手法の整理・検討 - 評価結果のまとめ - 事業スケジュールの設定 - 想定される課題と対応方策の検討 等
③ 事業者選定	- 民間事業者公募に向けた資料作成 - 事業者選定、手続きの調整、検討 - 事業者の選定及び契約手続き 等
④ 設計・施工	設計、施工、維持管理、運営のモニタリング 等

（資料：「PPP／PFI導入可能性調査簡易化マニュアル（内閣府）」を参考に作成）

参考事例:駅前施設

【事例】おながみらいテラス：遠賀川駅舎に併設した公共施設



- 自由通路に併設した駅前施設を官民連携で整備
- 3階で橋上駅に直結
- カフェ等の飲食機能や、休憩集会ができる多目的室、キッズスペース、テラス等を配置

（出典：遠賀町HP）

【事例】富士駅北口駅前広場の立体利用



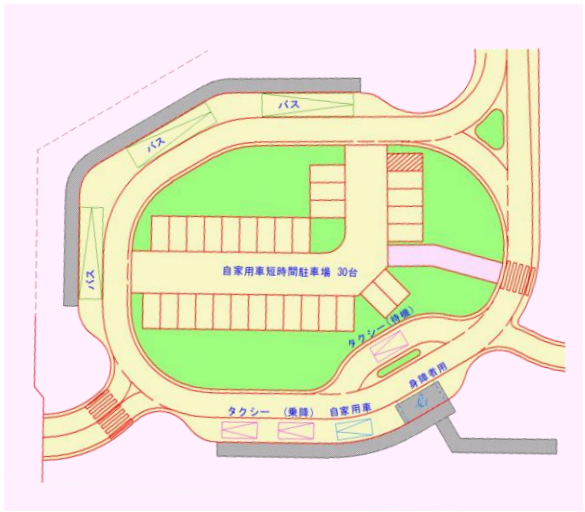
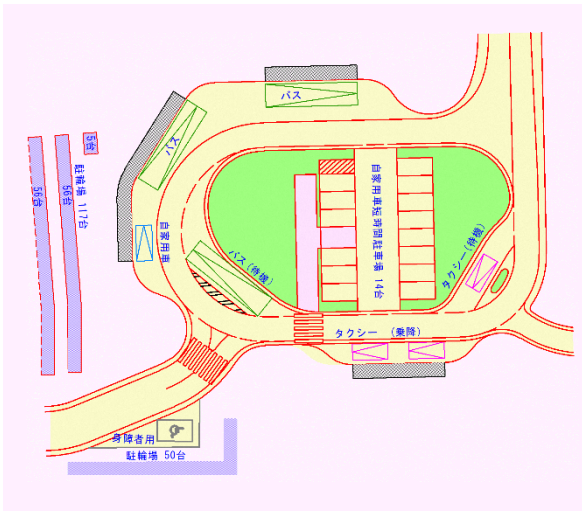
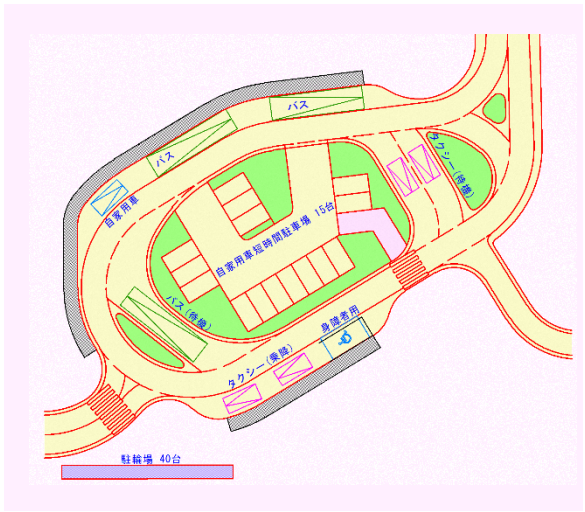
- 自治体が主体となって駅前広場を整備
- 自由通路、橋上駅の整備にあわせて、駅前広場を立体的に活用し、駅前施設を配置
- 歩行者動線の確保やにぎわいの拠点空間を創出

（出典：富士駅北口都市機能整備構想）

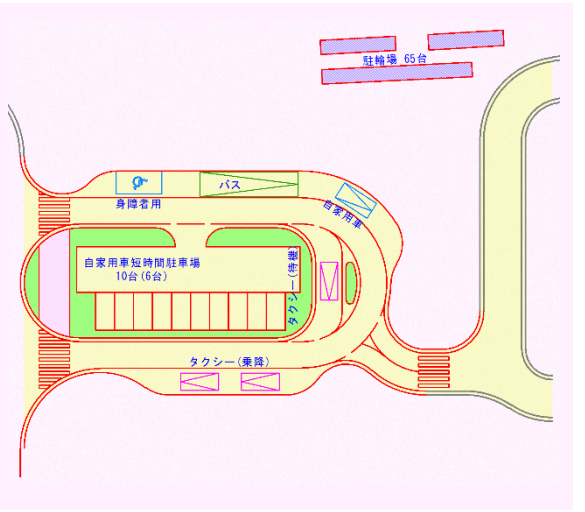
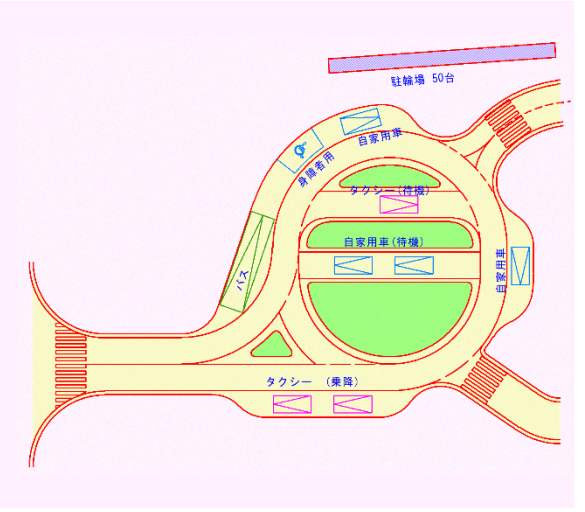
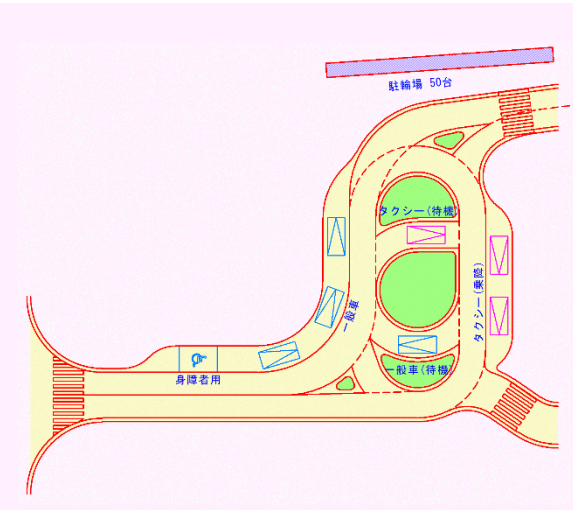
取組みの方向性:駅前広場再編パターン(案)

・企業進出やホテルの立地等が増加する中で、今後もバス等の公共交通のニーズが高まっていくことが想定されます。将来的な公共交通の運行も想定しながら、駅前広場の機能強化に取り組めます。

■北口駅前広場再編(案)

	レイアウト案	特徴
A 案		・バスの駐車台数を3台確保 ・一般車駐車場を30台確保 ・タクシー乗降場を2台、待機場を1台確保可能
B 案		・バスの駐車台数を3台確保可能 ・一般車駐車場を14台確保可能 ・駐輪場を200台程度確保可能 ・タクシー乗降場を2台、待機場を1台確保可能 ・駅前に滞留空間を確保可能
C 案		・バスの駐車台数を3台確保可能 ・一般車駐車場を15台確保可能 ・駐輪場を40台程度確保可能 ・タクシー乗降場を2台、待機場を2台確保可能 ・駅前に滞留空間を確保可能 (最も広い)

■南口駅前広場再編(案)

	レイアウト案	特徴
A 案		・バスの駐車台数を1台確保可能 ・一般車の乗降台数を1台確保可能 ・一般車の駐車場を10台程度確保可能 ・駐輪場を65台程度確保可能 ・タクシー乗降場を2台、待機場を1台確保可能
B 案		・バスの駐車台数を1台確保可能 ・一般車の乗降台数を2台、待機場を2台確保可能 ・駐輪場を50台程度確保可能 ・タクシー乗降場を2台、待機場を1台確保可能 ・駅前に滞留空間を確保可能
C 案		・広場でバスが転回できないため、周辺道路を活用して運行 ・一般車の乗降台数を3台、待機場を1台確保可能 ・駐輪場を50台程度確保可能 ・タクシー乗降場を2台、待機場を1台確保可能 ・駅前に滞留空間を確保可能 (最も広い)

参考事例:駅前広場の活用

【事例】桜町・花畑周辺地区：官民連携の一体的な空間

まちづくりガイドラインの策定、地区計画や協定等により、駅前広場及び道路歩行空間のシームレス（連続性のある）な空間を創出するとともに、新たに整備が想定される建物がこれら歩行空間と連携して整備されることにより、一体的なひろば空間を創出する。



- 地区内の市道を全面的な歩行空間とし、それに面する民地内のセミパブリック空間を合わせることで、人が主役のシンボルプロムナードを創出
- 新たに立地する建物は公共空間に開いて整備することで、建物と公共空間の一体性を確保

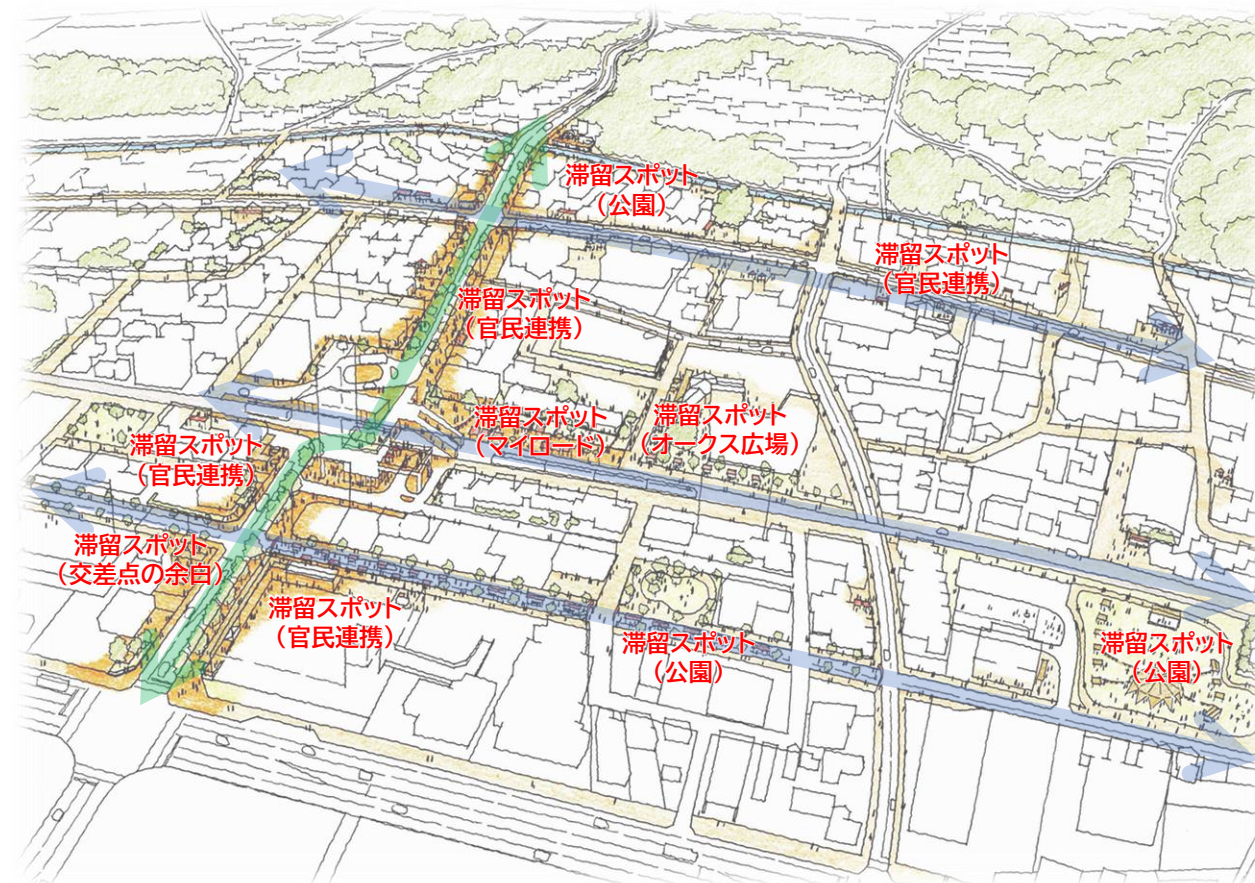
【事例】日向駅：交通広場に隣接した交流広場の整備



- 交通広場（駅前広場）に隣接して市民が憩える交流広場を整備
- 市民企画のイベント数が約1.8倍となり、集客数は約7.3倍に増加

（資料：国土交通省・日向市）

2 10の目標の実現に向けた取り組み



目標4: 回遊性と滞留性を高める拠点の形成

- ▶ まちなかにおける人の流れと滞留の場をデザインし、各街道の特性や地域全体のにぎわいを高めます

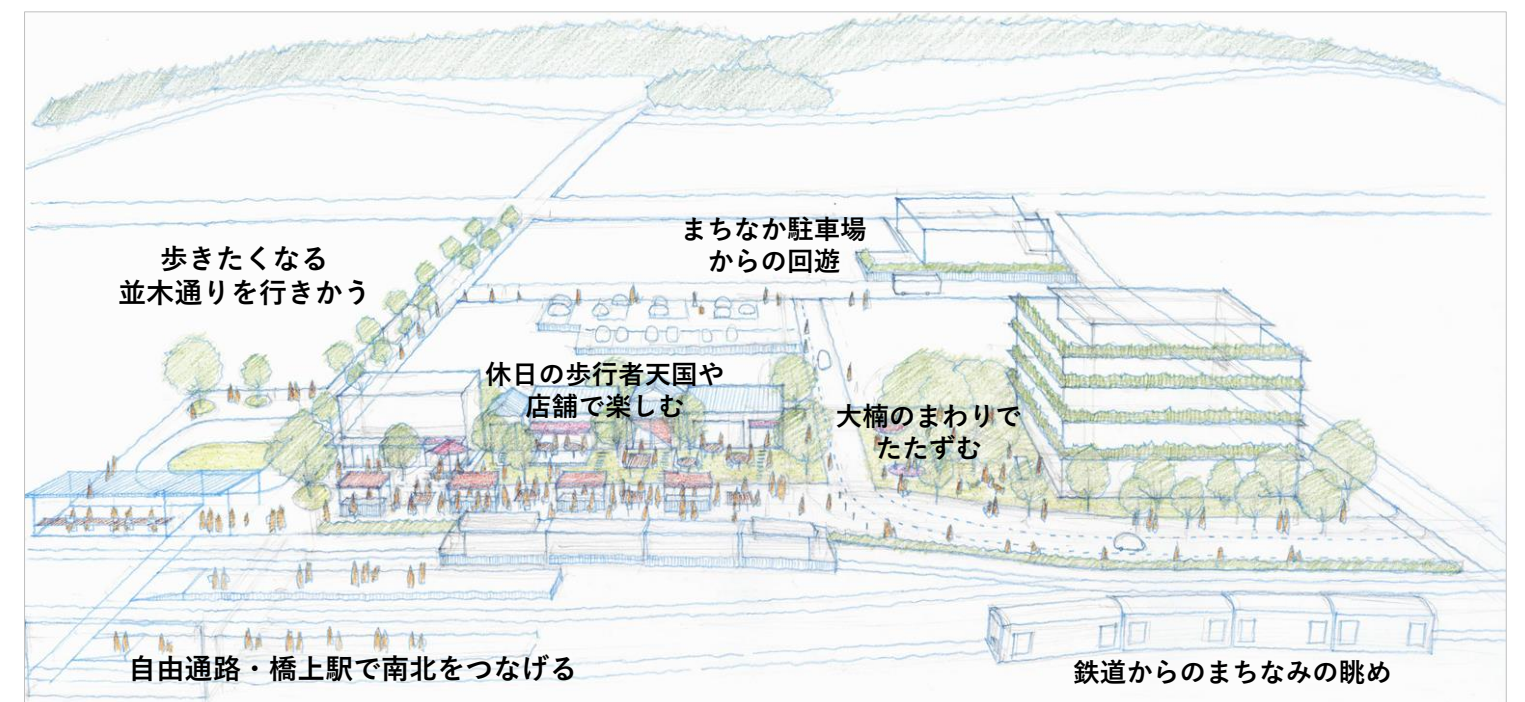
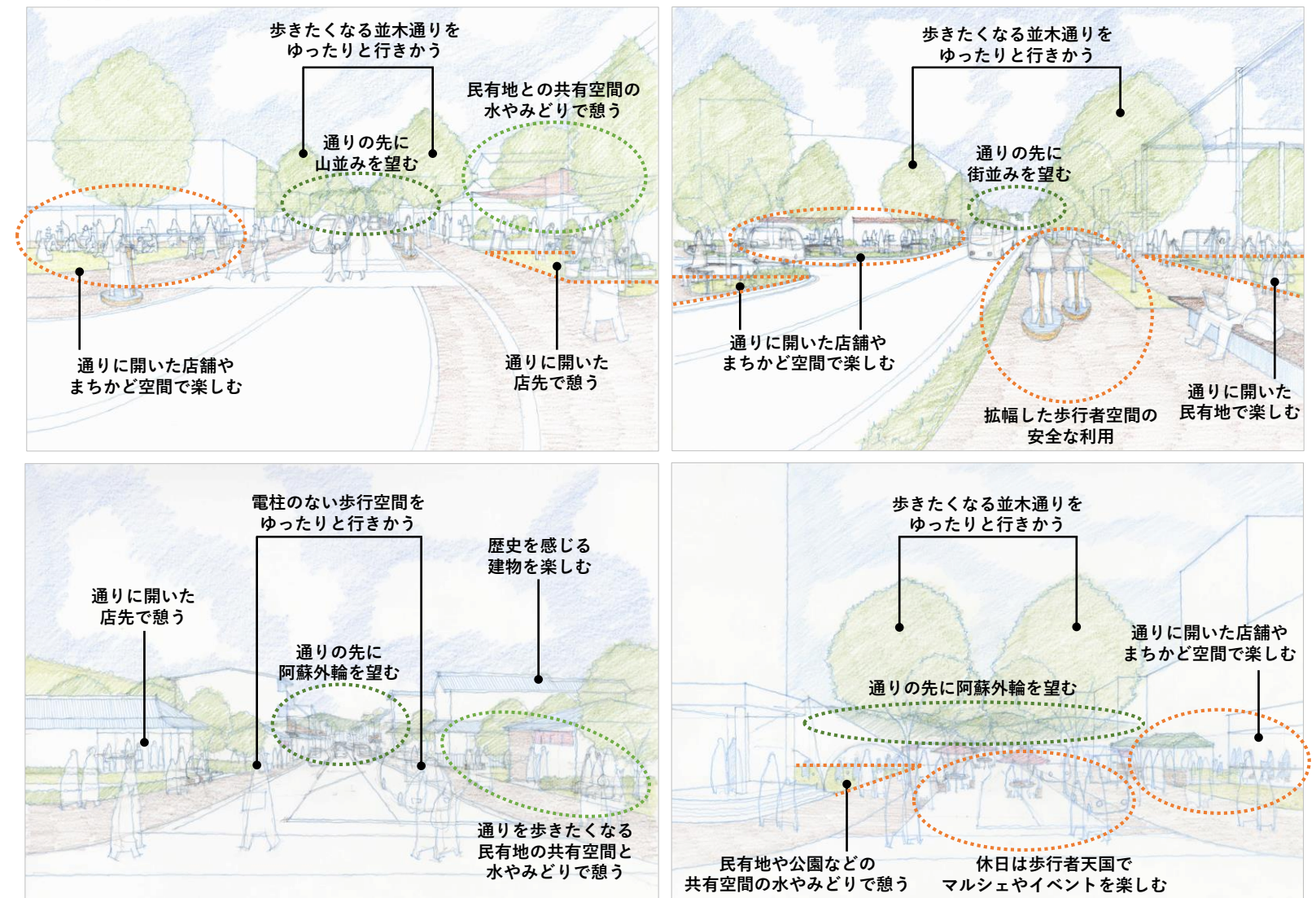
目標5: 官民連携による街道空間の機能と魅力の向上

- ▶ 歴史ある街道の価値を活かしつつ、暮らしやすく、まちづくりや商業、観光等の活動が盛んな街道を地域で一体となって創り出します

【想定される具体的取り組み】

- ・ 民有地と連携した滞留スポットやサイクルポートの整備
- ・ 民有地と公共空間（歩道、公園等）の一体利用や新たな滞留スポットの創出
 - 街道と一体となった公園や広場の活用（Park-PFI等を活用した新たな機能整備）
 - 道路占用を活用したベンチ等の設置
 - 歩道空間のイベント活用（キッチンカーなど）
 - 交差点等の角地を活用した滞留スポットの創出
- ・ 「ほこみち（歩行者利便増進道路）制度」の活用

< 空間活用のイメージ >



参考事例：公共空間や民有地を活用した滞留スポット

■びぶれす広場：通り沿いの民有地を活用した滞留スポットの創出



■オークス広場：公共空間を活用した社会実験の実施



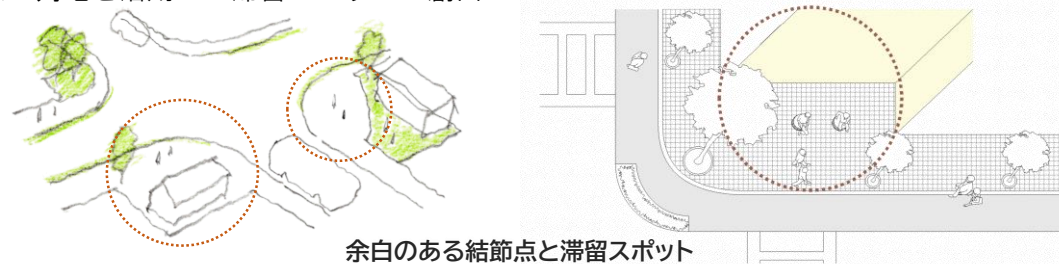
- オークス広場において、商工会、観光協会、大津町が連携し、社会実験を実施（R6.12）
- 駅利用者をターゲットとして、屋台やカフェ、学習スペースを設置し、利用者の属性や意向等を調査

■民有地を活用した駐輪場（交通結節機能）の整備



- 官民連携で、公開空地等を活用した駐輪場を設置し、駅直近への交通集中の軽減を図る

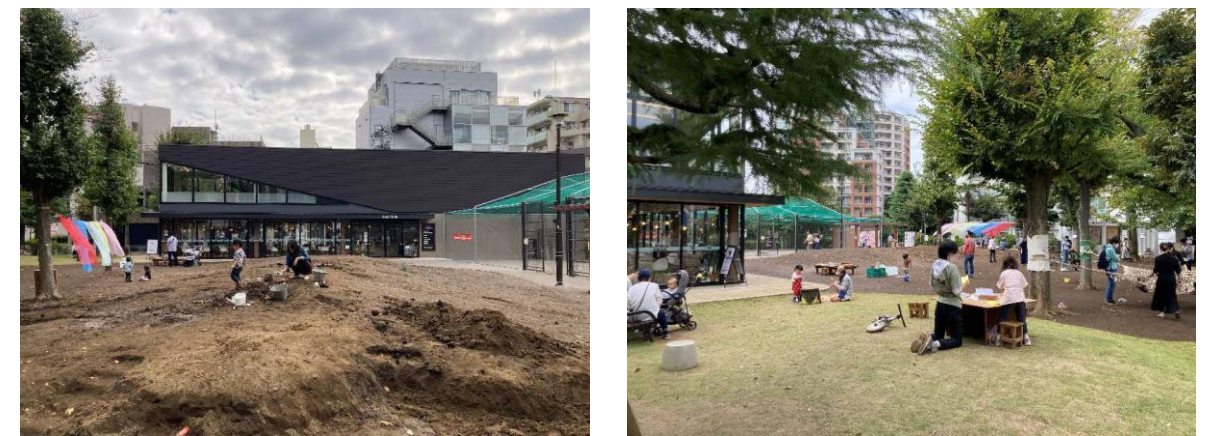
■交差点の角地を活用した滞留スポットの創出



- 主要な交差点等の角地に滞留スポット（まちかど広場）を設け、人の溜まりや次の目的地への回遊を促す空間を創出

参考事例：公園の活用（Park-PFI事業）

【事例】渋谷区恵比寿南一公園：Park-PFI事業による公園内のカフェの設置や新たなにぎわい空間の創出



- 「育つ・つながる・広がる」をキーワードとして、様々な遊びができる「プレーパーク」を中心とした公園へと再整備
- カフェ、プレーパーク、屋内多目的スペース等の機能を整備
- 地域の特性（子どもの遊び場の確保、ペットの散歩など）をターゲットとして、カフェ等の建物にはペットホテル、ドッグトレーニング機能を併設

【事例】福岡市警固公園：周辺の商業施設、公共空間に開かれた公園整備



- 公園内では、エリアマネジメント団体（We Love天神協議会）と連携し各種イベント等を実施
- 警固公園のリニューアルと連携し、隣接する商業施設（ソラリアプラザ）が警固公園側の外壁をガラス張りにリニューアル
- 中央広場、芝生広場、ベンチ、子ども広場、警固公園安全安心センターを併設

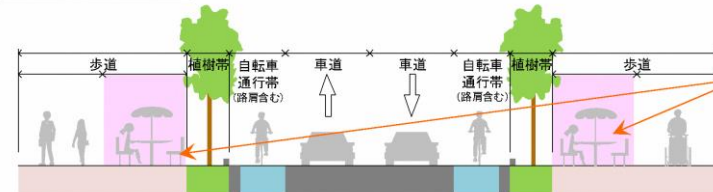
（出典：警固公園再整備事業）

2 10の目標の実現に向けた取組み

取組みの方向性:ほこみち(歩行者利便増進道路)制度を活用した滞留スポットの創出

道路空間を活用したにぎわいの創出に向け、民地との境界部分や道路利活用空間において、イベント、ベンチの設置、出店等が可能な空間を創出

制度のPoint



Point①
歩道等の中に“歩行者の利便増進を図る空間”を定めることが可能

Point②
特例区域では道路空間の活用を柔軟に許可

Point③
道路空間を活用する者の公募による選定が可能
その場合、最長20年の占用が可能



ほこみちで認められる占用物件(例)



看板(デジタルサイネージ)(新宿区)



ベンチ(神戸市)



食事施設(新宿区)



自転車駐輪器具(高崎市)

(出典:ほこみちリーフレット(国土交通省))

【事例】福井駅周辺の取組み



➢ 訪れる人や通勤・通学者にとって、より快適な歩行者空間を創出するため、歩行者利便増進道路(通称:ほこみち)制度の導入に向けた取組を実施

参考事例:ほこみち制度を運用した道路空間の活用

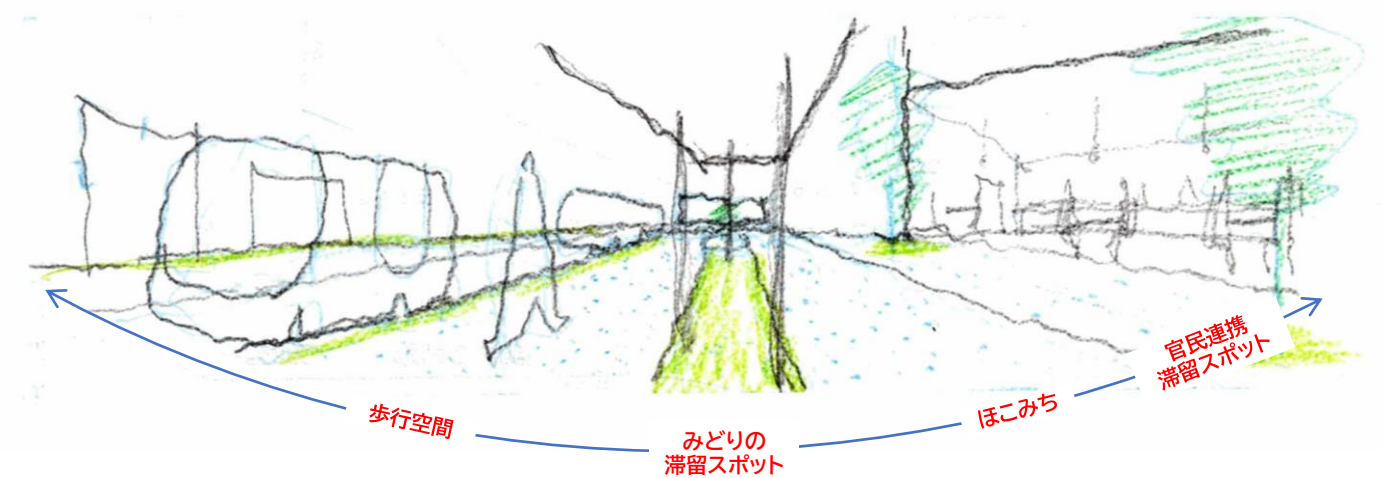
【事例】広島県福山市/市道霞1号線



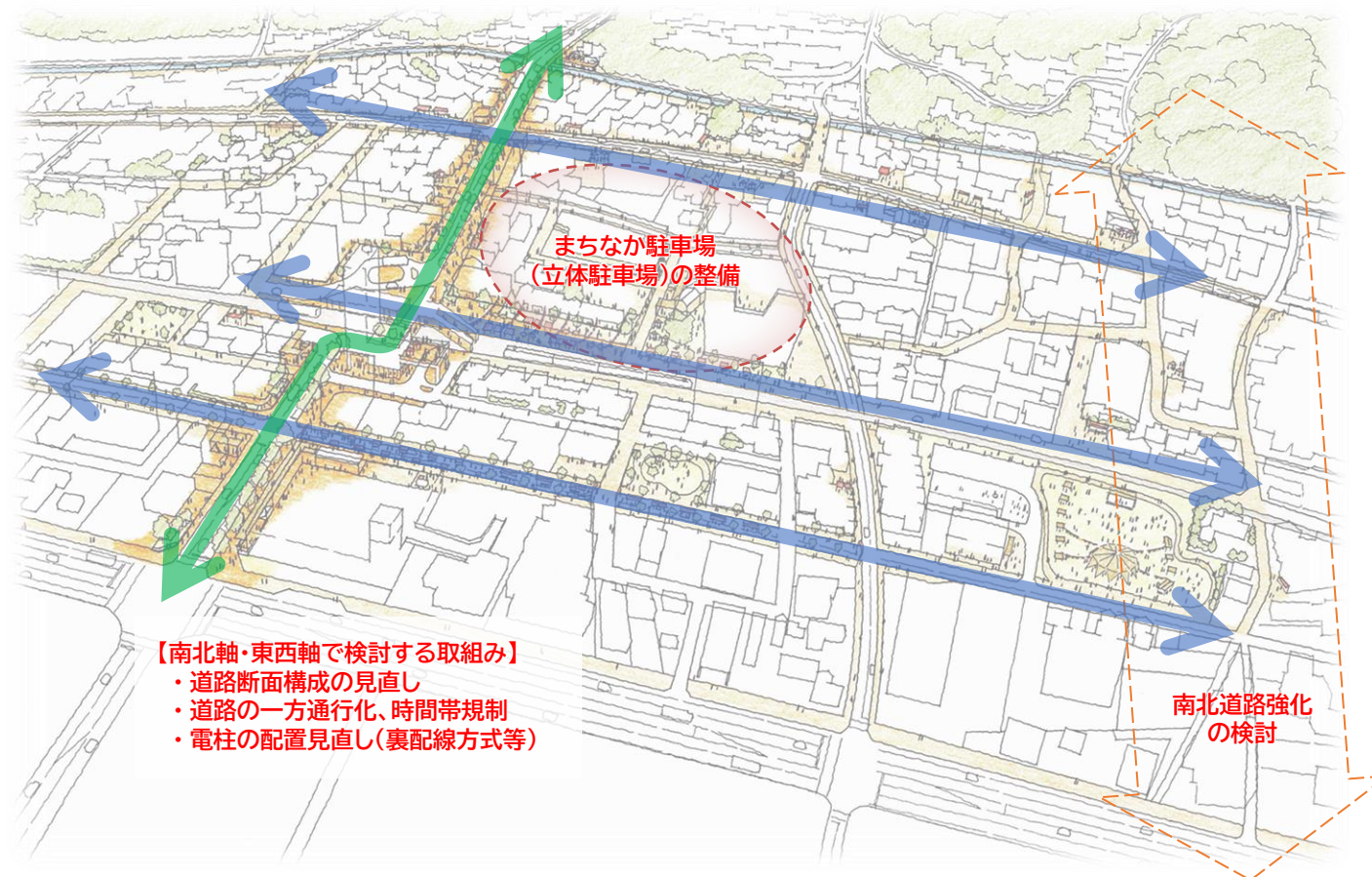
- 「福山駅前再生ビジョン(福山市策定)」に基づき、駅周辺を再生し、ウォーカブルなまちへの転換を目指す「ふくまち」プロジェクトの一環として実施
- 当路線では、商店街が主体となって道路占用を開始した後に「ほこみち制度」へ移行
- 沿道店舗がテーブルや椅子を設置し、食事スペースとして活用

(出典:ほこみちのとりくみ(国土交通省道路局))

<空間活用のイメージ>



2 10の目標の実現に向けた取り組み



目標6: 歩行者を中心とした、安全で快適な交通環境の構築

▶ 誰もが安心・快適に楽しく歩ける空間の創出を目指し、道路空間の再編や交通環境の見直しについて検討します

【想定される具体の取り組み】

- ・ 道路断面構成見直しの検討
 - 歩行幅等による安全性の強化、段差の解消、カラー舗装等の整備等
- ・ 道路の一方通行化や時間帯規制等の交通体系見直しに併せて、道路空間を活用したにぎわいを創出
- ・ 電柱の配置見直し（裏配線方式等）
- ・ 南北道路の強化
 - 駅まち空間内の通過交通等の抑制に向け南北道路の強化を検討（空港アクセス鉄道の詳細ルート決定後に具体化）

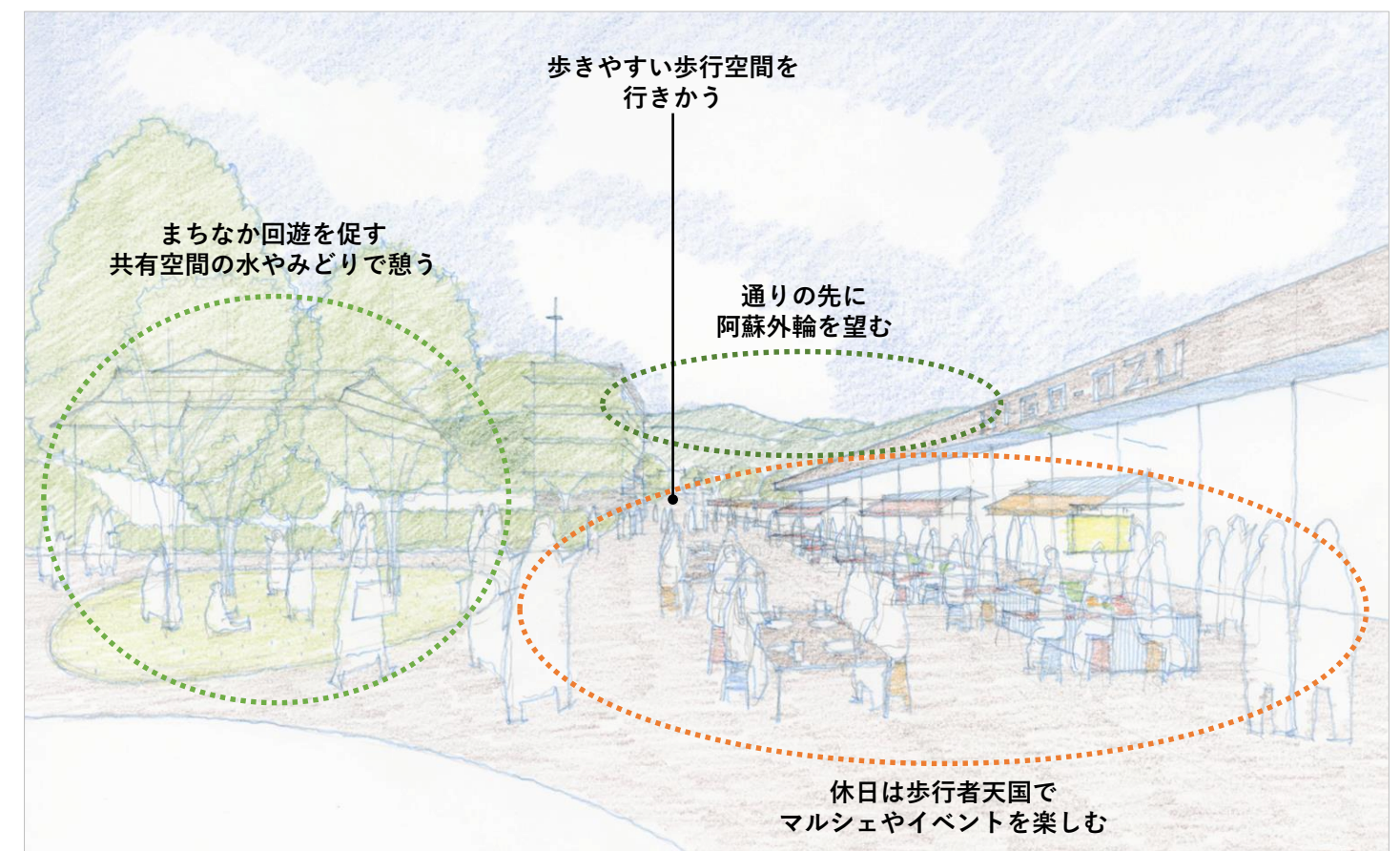
目標7: 目的地へのアクセスを円滑にする交通・駐車スペースの確保

▶ 駅前・まちなかへの円滑なアクセスを確保するため、公共交通の機能を強化するとともに、利便性の高い駐車場やスペースを整備します

【想定される具体の取り組み】

- ・ 駅周辺へのアクセス性を高める公共交通の機能強化
- ・ 官民連携によるまちなか集約駐車場の整備
 - 民間導入に向けた調査、協議
 - PPP、PFI事業など官民連携事業の検討
- ・ まちなか駐車場の整備に併せた周辺道路整備の検討

<空間活用のイメージ>

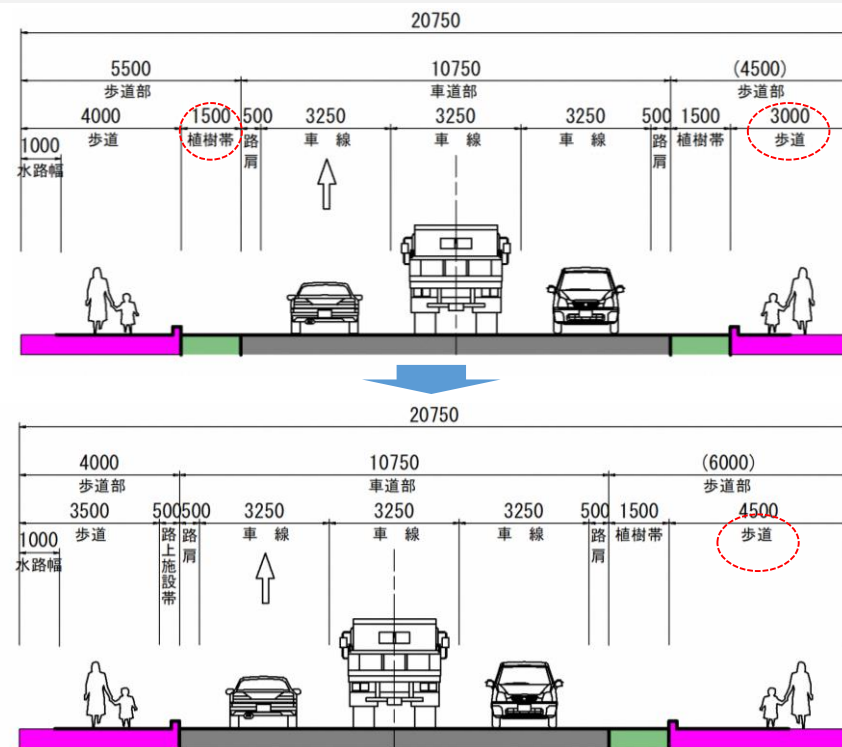


2 10の目標の実現に向けた取組み

取組みの方向性:道路断面構成の見直し

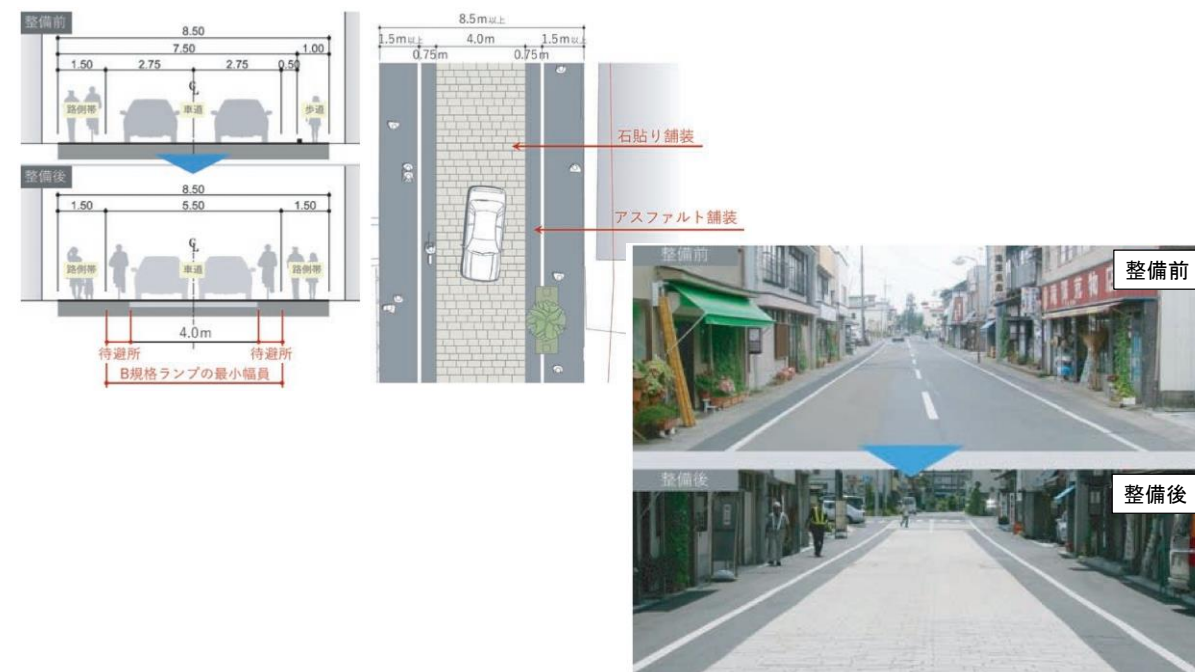
【見直しパターンの例①】

- 植樹帯を見直すことで、歩道を拡幅



【見直しパターンの例②】

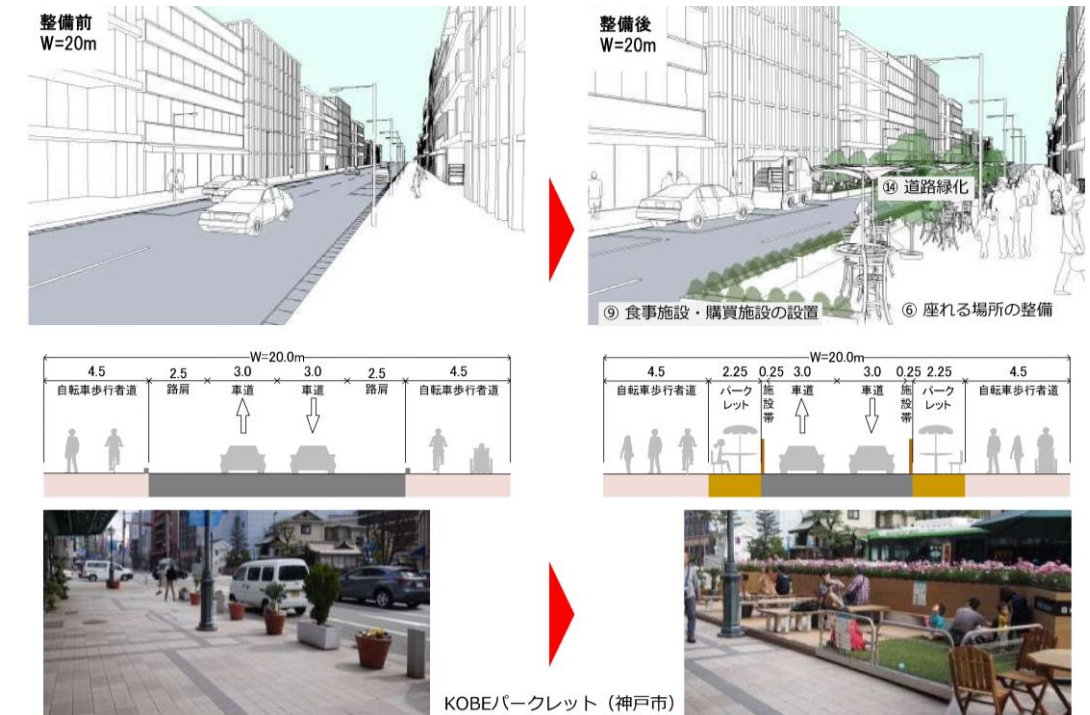
- 歩道を拡幅して安全性を高めるとともに、街道特性に合わせた道路舗装等により空間としての一体性・連続性を創出することで歩車共存道路への見直しを図る。



(出典：国土技術政策総合研究所・緑化生態研究室資料)

参考事例:道路を活用したにぎわいの創出

【事例】KOBEPARKレット：道路の断面見直しによるにぎわいの創出



- 道路断面を見直すことで、休憩スペース（座れる空間）や、食事・購買等に利用できる空間を創出するとともに、道路の緑化を推進

(出典：ストリートデザイン懇談会資料)

【事例】丸の内仲通り：道路の時間帯規制によるにぎわいの創出



- 平日の11時から15時、土日祝日の11時から17時まで「丸の内仲通りアーバンテラス」として歩行者に解放
- 昼食の時間帯には日替わりでキッチンカーが出店し、歩行者に解放している時間帯は、通りにテーブルや椅子等を設置
- 各種社会実験等を通じて、歩行者中心の道路空間へ再編
- エリアマネジメント団体（大丸有エリアマネジメント協会）により、情報発信や各種公的空間活用を実施

取組みの方向性:電柱の配置見直し(裏配線方式等)

- 電柱の配置見直しにより、安全性や快適性の高い歩行空間を確保。
- 加えて、沿道の建物の景観形成を検討するなど、宿場町の歴史等を感じる街並みの形成を目指す。

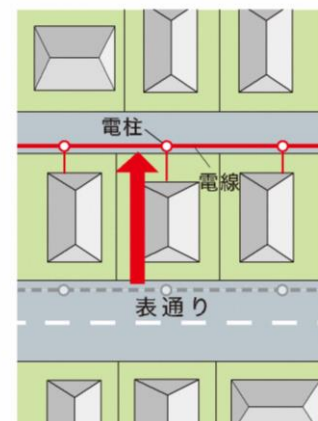
<イメージ>県道30号の電柱配置見直し



【無電柱化の手法】

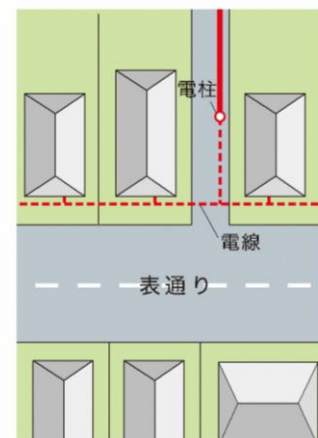
裏配線

無電柱化したい主要な道路から電線類をなくし、沿道の需要家への引き込みを裏側から行い、主要な道路を無電柱化する手法です。



軒下配線

無電柱化したい道路の脇道に電柱を配置し、そこから引いた電線類を沿道の各戸の軒下、または軒先に配線します。



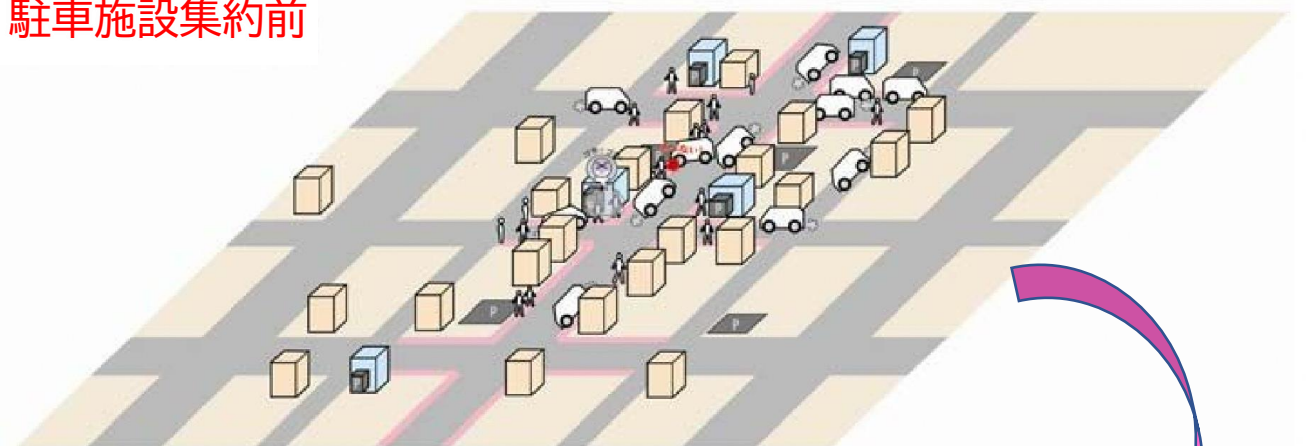
(出典：国土交通省中部地方整備局資料)

取組みの方向性:官民連携によるまちなか集約駐車場の整備

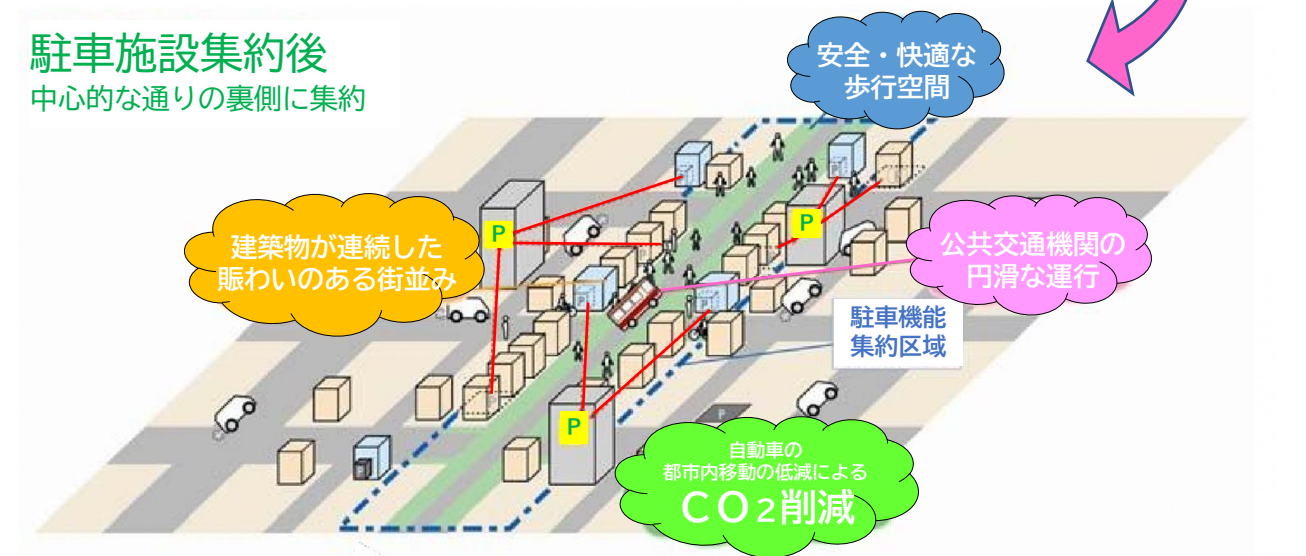
- 鉄道やバス利用者のみならず、周辺の飲食店や公共施設利用者等の利用を検討
- 官民連携による整備、利用形態、維持管理手法等を検討
- 駅や周辺の飲食店、役場等へのアクセス性の観点から配置場所を検討
- 集約駐車場により、安全・快適な歩行空間の確保のみならず、にぎわいのある街並みの創出や土地利用の促進につなげる

【集約駐車場の効果】

駐車施設集約前

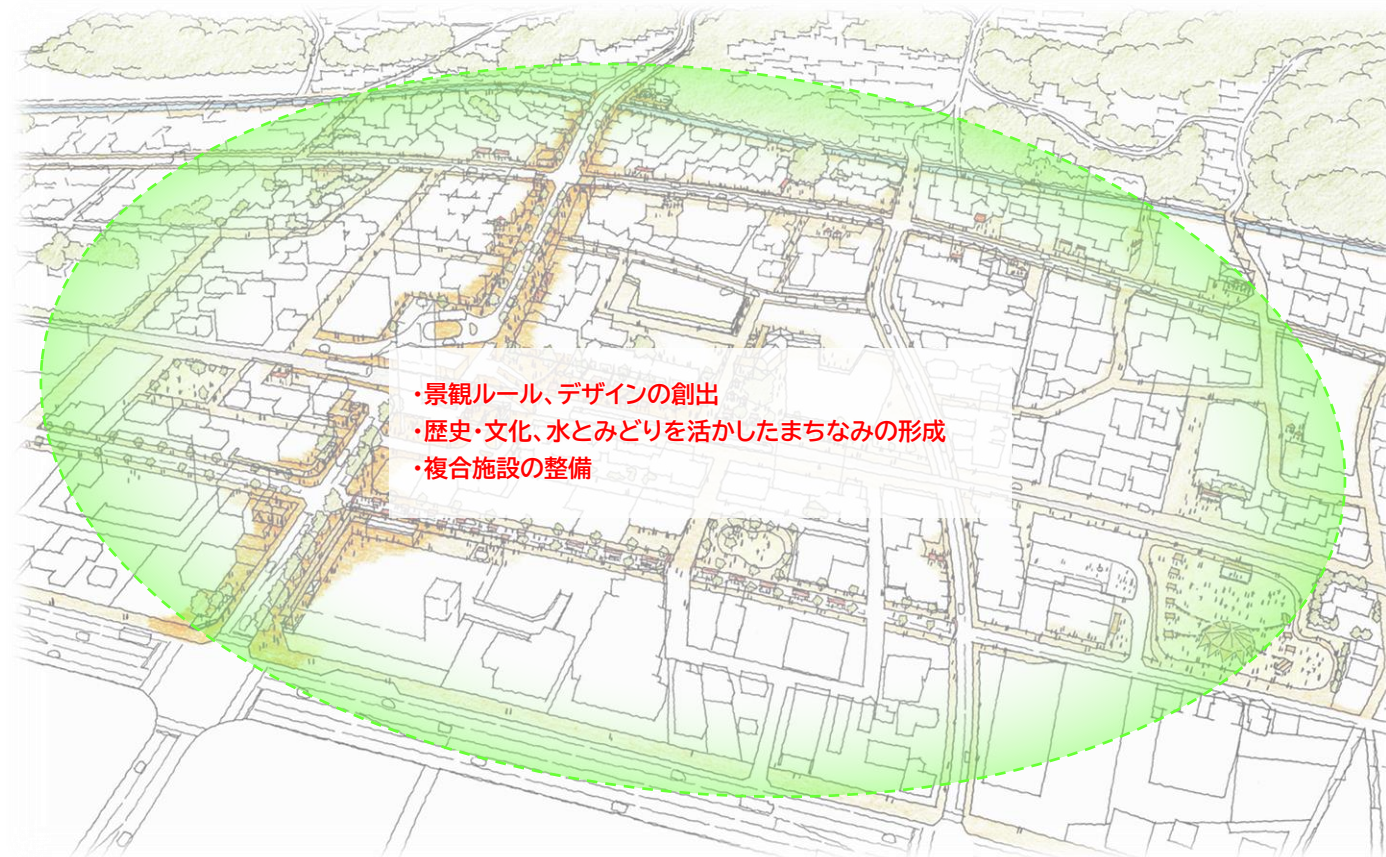


駐車施設集約後 中心的な通りの裏側に集約



(出典：都市の低炭素化の促進に関する法律に基づく駐車施設の集約化に関する手引き(国土交通省都市局))

2 10の目標の実現に向けた取組み



目標8: おおづらしさを表現する景観ルール、デザインの創出

▶ 大津の魅力を継承し発展させるため、全体性と一貫性をもったルールやデザインを検討します

【想定される具体の取組み】

- ・シンボルロードのまちづくり形成方針等の検討
 - 地区まちづくり方針、デザインガイド等
- ・まちづくり協定や地区計画など、まちづくり手法の検討

目標9: 歴史・文化、水とみどりを活かしたまちなみの形成

▶ 文化資源や自然を空間的につなぎ、一体感のあるまちなみ景観を形成します

【想定される具体の取組み】

- ・歴史や文化を活かしながら、沿道建物と連携した街路空間の修景を創出
- ・大津の水とみどりを活用したネットワークの構築
 - 植樹・植栽等のみどりの連続性確保
 - 上井手と連携した親水空間の確保
 - 水を感じるモニュメントやみどりのスポットによる空間演出

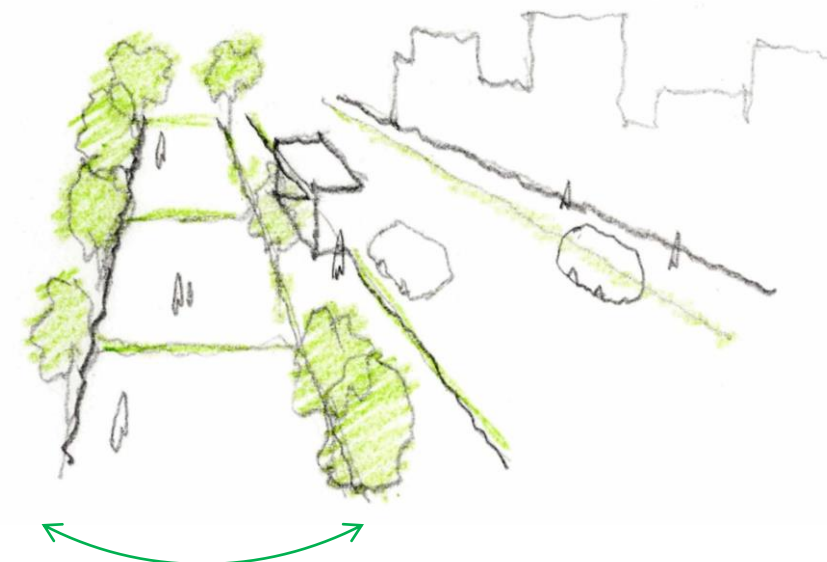
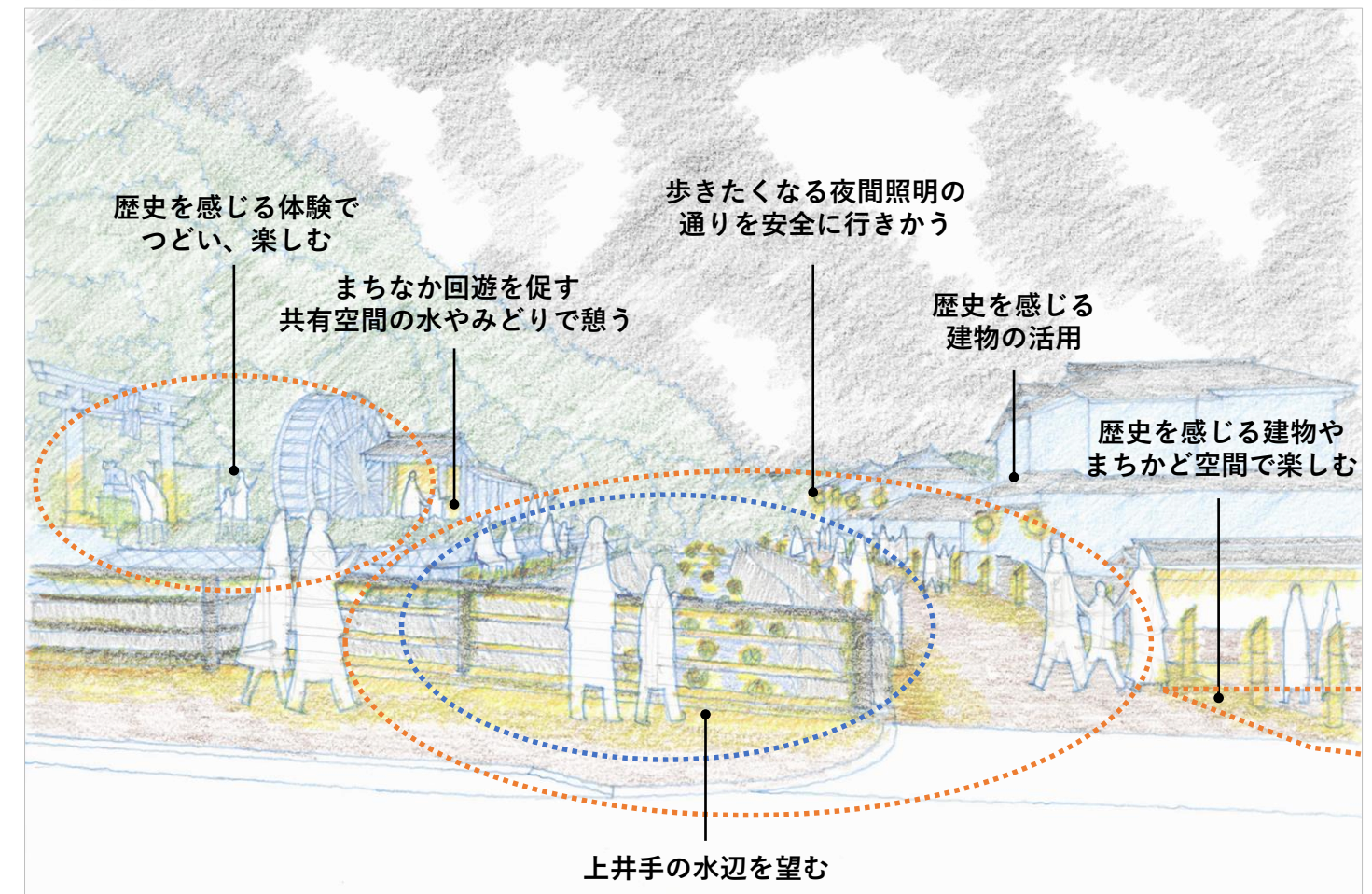
目標10: “ひと”と“まち”をつなぐ複合施設の整備

▶ 多世代が利用し、交流が生まれる拠点として、地域に根ざした複合施設を整備します

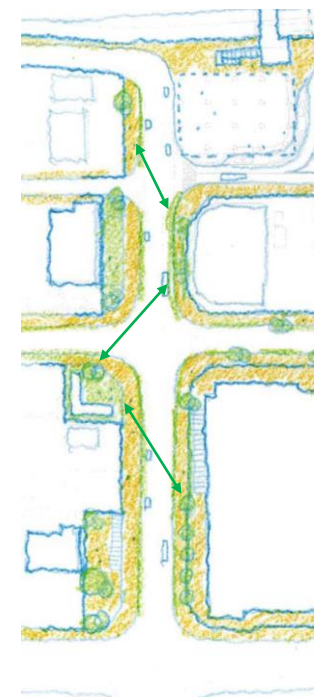
【想定される具体の取組み】

- ・アクセス鉄道の整備等に伴う周辺環境の変化を踏まえた公共施設の位置づけ等の検討
- ・まちなか複合施設の整備

<空間活用のイメージ>



<官民連携によるみどりのプロムナードの創出>



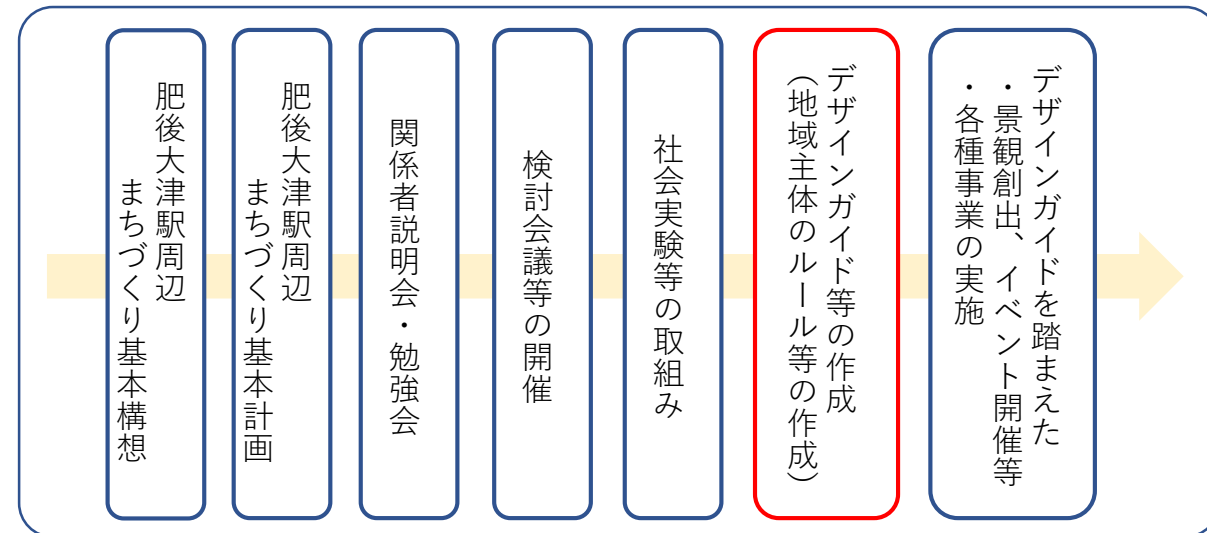
<水とみどりがつくる通りの連続性>

2 10の目標の実現に向けた取り組み

取り組みの方向性:デザインガイド等の作成

- 通りの将来像、デザイン指針や実現方策を示し関係者で共有
- 当該方針に基づく施設整備、統一された景観、地区にふさわしい機能やにぎわいを創出

【デザインガイドライン等の策定の流れ（例）】



【事例】花畑町通りリニューアル

花畑町通りのコンセプト

賑わいと交流を育む「広場を備えた道路」

- ◆ 歩行者や自転車などゆっくりの交通に配慮し、子供からお年寄り、障がい者の方まで誰もが笑顔で生き生きと暮らしやすいまちづくり
- ◆ 都市景観の向上や災害に強い道路
- ◆ 滞留する憩いの居場所づくりによる地域活性化
- ◆ 「誇れる地域の宝」を活かした魅力的な空間形成



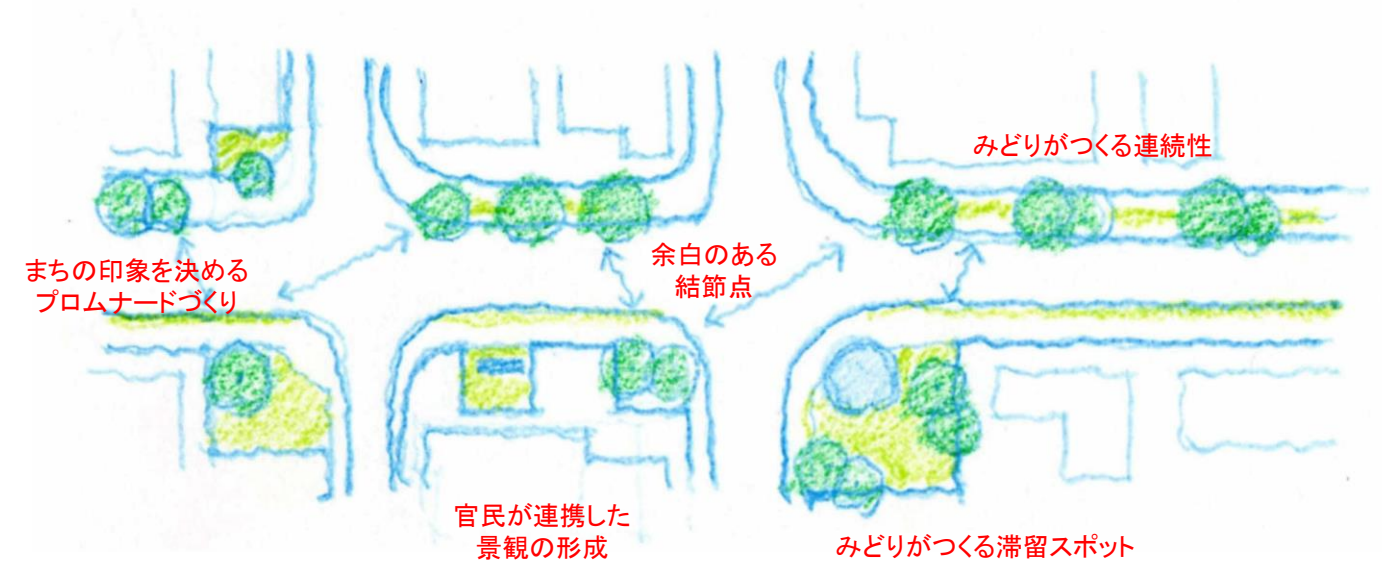
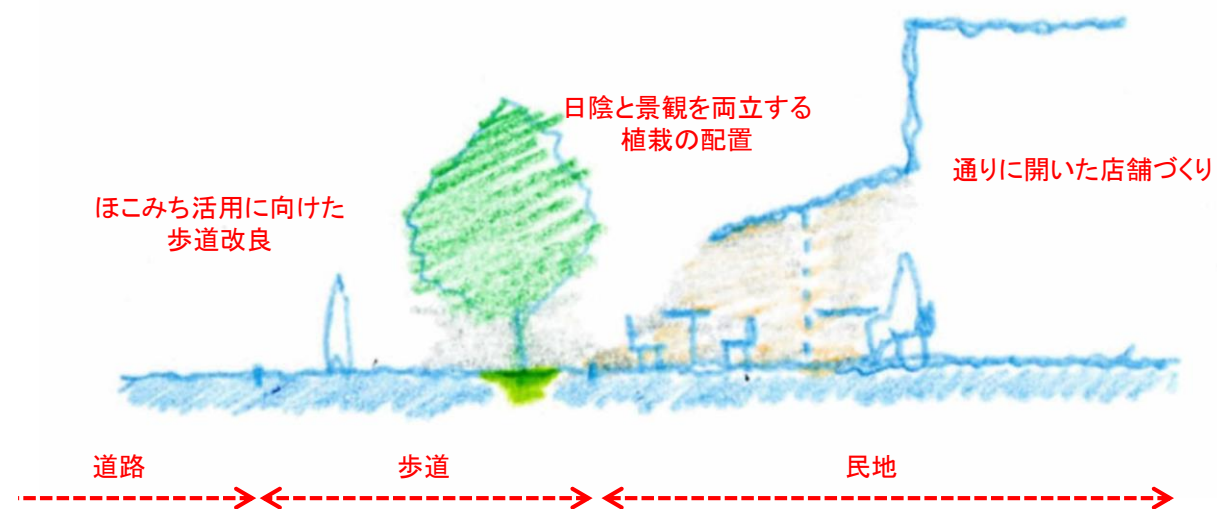
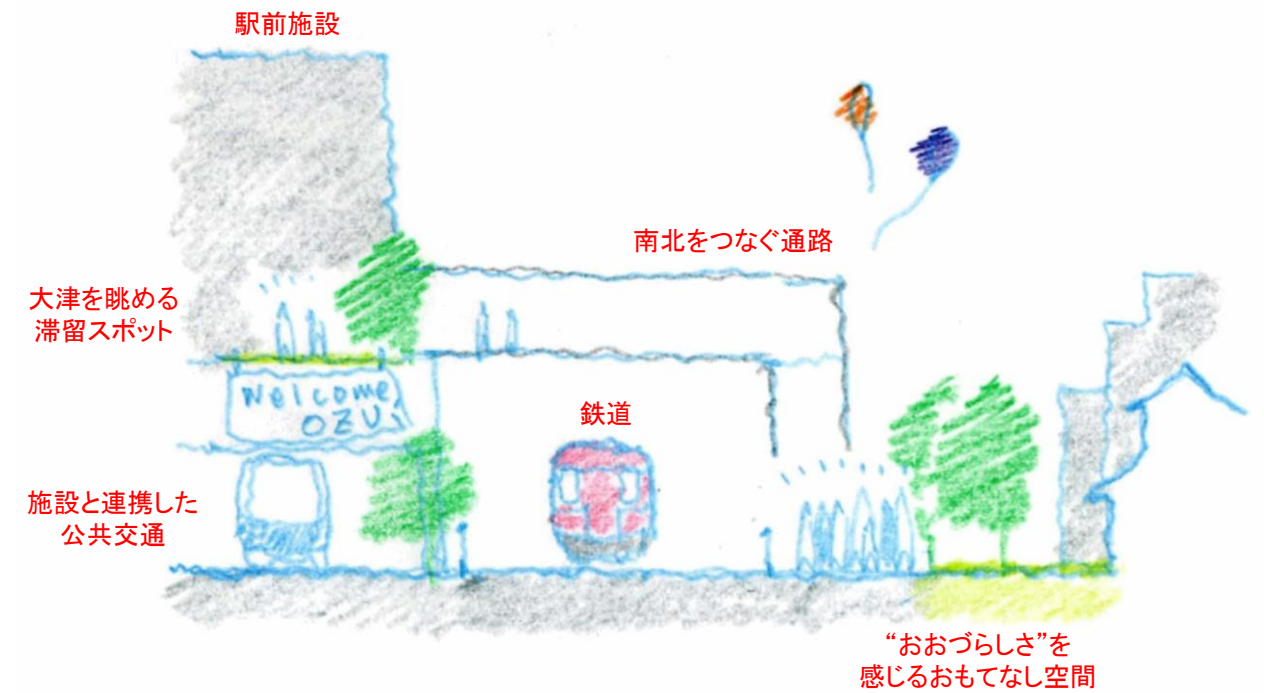
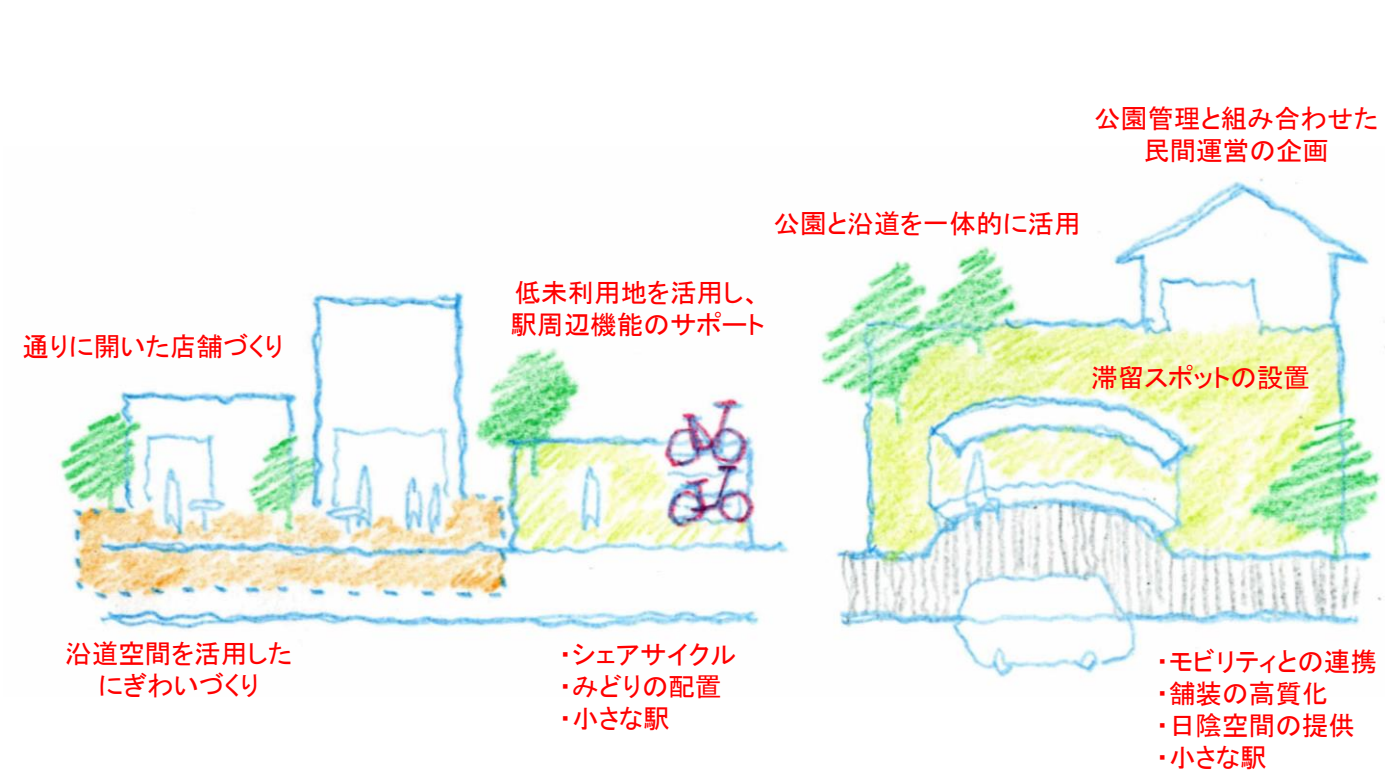
取り組みの方向性:大津の歴史・文化や水とみどりの活用

- 「大津らしさ」を形成する宿場町の雰囲気、水やみどり（上井手）などをデザインすることで、まちの連続性や一体性を演出する空間の創出を目指す



3 10の目標の実現に向けたデザインコード

- ・「10の目標の実現に向けた取組み」で位置付けた各取組みを実施するに当たっては、関係する様々な主体との連携をはじめとする官民連携の取組みが重要です。
- ・これら取組みの実現に向けて、空間、景観のデザイン等の考え方（指針）を整理します。



4 10の目標の実現イメージ(将来の活用イメージ)

大津町に住み、働く人が、休日は通り沿いにできたイベント、スポーツなどが楽しめる滞留スポットで、友達や家族とゆっくりと過ごす

少しの時間、子どもをあずけて用事を済ませた後に、家族みんなでカフェでお茶したり、公園で遊んで楽しむ

通り沿いのカフェやキッチンカーでランチを楽しみ、木陰のベンチで寛ぎながら読書にふける

学校・部活からの帰りに電車を待つ間、駅前施設やカフェ等で勉強したり、友達とおしゃべりして過ごす

公園でグラウンドゴルフを練習した後や病院・福祉施設を利用した後に、木陰のベンチや喫茶店で会話を楽しむ

駅前の広場空間や東西・南北軸の空間を活用して行われる夜市や交流イベントをみんなで企画、参加して楽しむ

ホテルやご当地グルメが楽しめる飲食店、特産品が揃うショップにスムーズにアクセスし、観光の合い間にはカフェや空中広場で休憩しながら、阿蘇への眺望を楽しむ

空港からアクセス鉄道で駅へ移動し、送迎バスでサイエンスパークへ向かう。仕事終わりには駅周辺のホテルに宿泊し、近くの居酒屋でビジネスパートナーと食事を楽しむ



6 参考資料

- 1 策定経緯
- 2 オープンハウス及び社会実験結果
- 3 民間サウンディング調査結果



※まちづくり会議及びWGメンバーとは適宜個別意見交換を実施

■ まちづくり会議

所 属	役 職	氏 名	備 考
早稲田大学理工学術院創造理工学部建築学科	教 授	田中 智之	会長
NPO法人クラブおおづ	顧 問	江原 梅夫	
大津町企業連絡協議会	会 長	松島 嘉浩	
大津町教育委員会	教育委員	寺下 早苗	
大津町区長会	会 長	松本 幸祐	
大津警察署	地域課長	上米良 岳	
大津町社会福祉協議会	事務局長	松木 雄一郎	
大津町身体障害者福祉会	会 長	松本 カズヨ	
大津町商工会	会 長	松永 幸久	
大津町女性の会	会 長	坂本 晶江	
大津町認可保育園園長会	会 長	備海 伸隆	
肥後おおづ観光協会	理事長	山下 和貴	
肥後大津にっこり会	会 長	糸木 志保美	
ふれあい散歩道商店街繁栄会	会 長	岩永 洋典	
ワーキンググループ	メンバー	家入 義典	WG
ワーキンググループ	メンバー	今村 健二	WG
ワーキンググループ	メンバー	藤原 芳彦	WG
ワーキンググループ	メンバー	本郷 邦之	WG

※令和7年7月25日開催のまちづくり会議出席者（事前に意見提出があった方を含む）を掲載

■ 有識者会議

所 属	役 職	氏 名	備 考
早稲田大学理工学術院創造理工学部建築学科	教 授	田中 智之	会長、WG
株式会社風景工房	共同代表	増山 晃太	WG
ズトチデザイン	共同代表	吉海 雄大	WG

■ ワーキンググループ (WG)

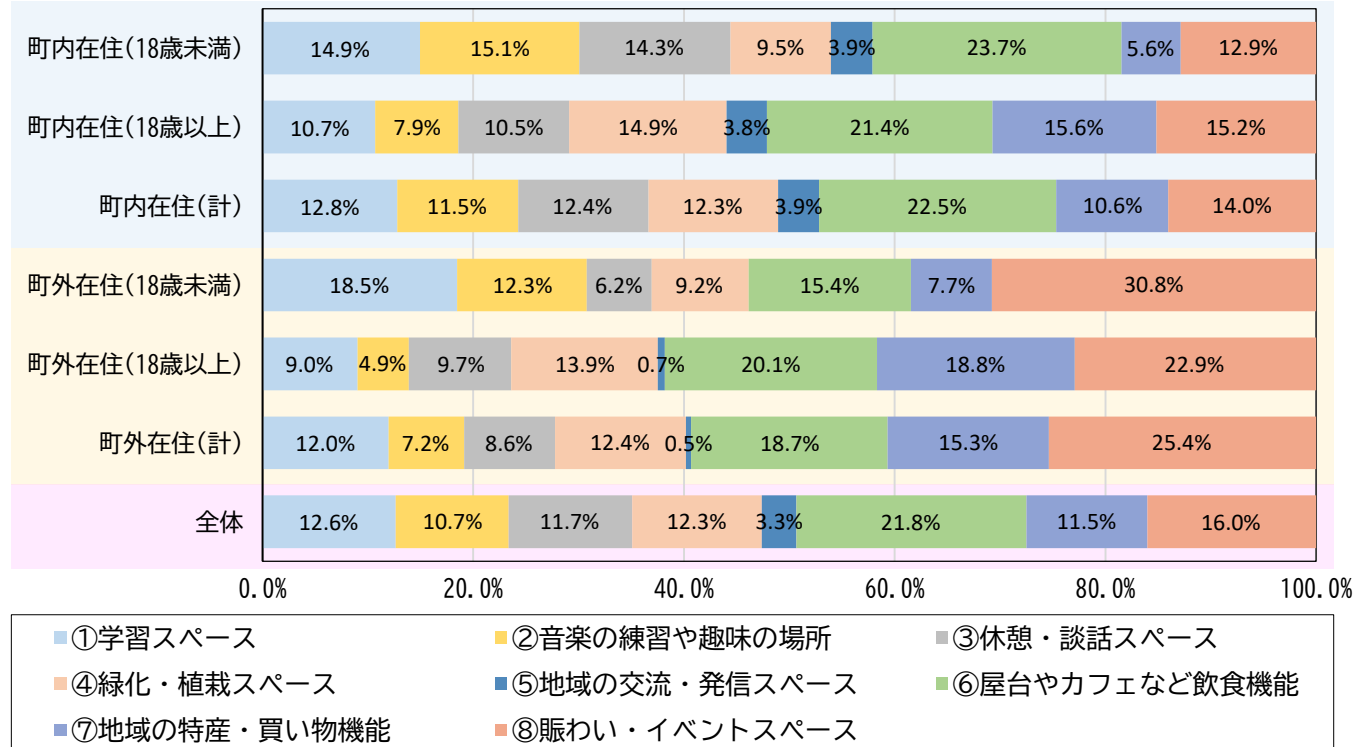
・有識者会議メンバー、ワーキンググループメンバー、その他関係機関（熊本県等）

2 オープンハウス及び社会実験結果

(1) おおづオータムフェスタにおける肥後大津駅周辺まちづくりオープンハウス

日時	令和6年10月13日 13時～18時
場所	おおづオータムフェスタ会場（大津町中央公園）
内容	①肥後大津駅周辺まちづくりのPR（ポスター展示、シール配付） ②肥後大津駅周辺まちづくりに向けた意見把握（アンケート調査） ③社会実験に向けた、学生との意見交換

【オープンハウスアンケート調査結果（肥後大津駅周辺に欲しい施設）】



- 「全体」及び「町内在住」では、「屋台やカフェなど飲食機能」が最も多い。
- 「町外在住」では、「賑わい・イベントスペース」が最も多い
- 「18歳未満」では、「学習スペース」が町内では3番目、町外では2番目に多い。



(2) 肥後大津駅周辺まちづくり社会実験

日時	令和6年12月4日～10日 平日：15時～20時 土日：10時～20時
場所	オークスプラザ（談話室・研修室・芝生広場）
内容	・おおづオータムフェスタにおいて実施した「肥後大津駅周辺に求める機能」に関するアンケート結果を踏まえて、駅周辺に学習スペースや飲食機能を設置し、利用状況を調査する社会実験を実施 ① 学習・休憩・談話スペース ② 屋台・カフェ ③ 交流・ふれあいスペース（おおづ図書館による移動図書館や紙芝居、モルック体験など） ・実施に当たっては、商工会・観光協会と連携

【社会実験周知用ポスター・チラシ】

～地域の皆さんからいただいたご意見をカタチにします！～

肥後大津駅周辺まちづくり社会実験プロジェクト

カフェ 学習 休憩 談話 交流 ふれあい

「肥後大津駅周辺に求める機能」についてのアンケート結果を踏まえ、駅周辺に期間限定で学習などに利用できるスペースやカフェ・屋台のような飲食機能を設置し、利用状況を調査する社会実験を実施します。

送迎を待つ学生の皆さまや、帰宅前に軽く晩酌をされたい方におすすめです。ぜひご利用ください！※今後のまちづくりの検討につなげるためのアンケートも実施しますので、ご協力をお願いします。

日程 令和6年 12月4日(水) → 10日(火)

開催内容	4(水)・5(木)・6(金) 9(月)・10(火)	7(土)・8(日)
学習・休憩・談話スペース	15:00～20:00	10:00～20:00
カフェ	15:00～20:00	10:00～20:00
屋台	17:00～20:00	15:00～20:00
交流・ふれあいスペース	—	おおづ図書館(9時～18時)：8(日) 11:00～14:00 お話し会(飯島町)：両日とも11:00～13:00 モルック体験など：両日とも10:00～20:00

会場 オークスプラザ／談話室・研修室・芝生広場

問合せ先／大津町役場都市計画課 TEL:096-293-4011

カフェ & 屋台 出店情報			
	カフェ	屋台	
12/4(水)	honey lemon soda.m	肉酒場 おんのや	M・K企画
12/5(木)	honey lemon soda.m		白水乃蔵
12/6(金)	BeTREE		宇城水産加工
12/7(土)	honey lemon soda.m		ファーム ヨシダ
12/8(日)	honey lemon soda.m	あじまん	ファーム ヨシダ
12/9(月)	honey lemon soda.m		
12/10(火)	honey lemon soda.m		
	BeTREE		

<メニュー>

honey lemon soda.m	ハニーレモンソーダ各種、コーヒー、ガトーショコラ、バナナケーキ 等
BeTREE	パン、焼き菓子、カフェラテ、キャラメルラテ、ぶどうソーダ 等
肉酒場 おんのや	地鶏の炭火焼(12/4-5)、おでん(12/6-10)、ビール、お湯割り、熱燗
あじまん	小籠包、ソーセージ香巻、ルーロー飯、台湾ビール 等
M・K企画	おでん、お湯割り、熱燗
白水乃蔵	牛串、お湯割り、熱燗
宇城水産加工	地鶏、アスパラベーコン、天ぷら、ビール
ファーム ヨシダ	ホットドッグ、フランクフルト、豚まん、豚肉コロッケ、豚軟骨カレー



2 オープンハウス及び社会実験結果

【社会実験アンケート調査結果】

①利用者数

※利用者数は、屋台やカフェの売り上げ等をもとに算出

	12/4 (水)	12/5 (木)	12/6 (金)	12/7 (土)	12/8 (日)	12/9 (月)	12/10 (火)	合計
屋台	110	114	101	103	101	103	76	708
カフェ	40	57	45	68	57	36	76	379
学習スペース	1	8	10	5	6	8	11	49

- 7日間で1000名（延べ人数）を超える利用あり
- 平日と土日で利用者数に大きな差はない

②年齢

	件数	割合
19歳以下	28	17.6%
20～29歳	40	25.2%
30～39歳	28	17.6%
40～49歳	35	22.0%
50～59歳	20	12.6%
60～69歳	7	4.4%
70～79歳	1	0.6%
計	159	100.0%

- 20代の利用が最も多く、次いで40代が多い

④居住地

	件数	割合
大津町内	116	73.0%
大津町外	42	26.4%
熊本県外	1	0.6%
計	159	100.0%

- 町外からの利用者が25%を上回っている



③肥後大津駅の利用状況

	件数	割合
毎日	11	6.9%
平日毎日	23	14.5%
週に2～3回程度	12	7.5%
週に1回程度	7	4.4%
月に数回程度	30	18.9%
年に数回程度	59	37.1%
利用しない	17	10.7%
計	159	100.0%

- 「年に数回程度」が最も多い

⑤肥後大津駅周辺を訪れた理由（複数回答可）

	件数	割合
今回の社会実験	66	30.8%
通勤	29	13.6%
通学	24	11.2%
買い物	18	8.4%
飲食店利用	17	7.9%
散歩・散策	12	5.6%
なんとなく・たまたま	12	5.6%
仕事（出張）	11	5.1%
公共施設等利用	10	4.7%
送迎	4	1.9%
観光	2	0.9%
その他	9	4.2%
計	214	100.0%

- 社会実験を目的に訪れた方が最も多いが、通勤、通学者の利用も10%を上回っている

⑥滞在時間

	件数	割合
30分以下	32	20.1%
30分～1時間	67	42.1%
1～2時間	46	28.9%
2～3時間	11	6.9%
3時間以上	3	1.9%
計	159	100.0%

- 「30分～1時間」が40%を上回り最も多い

⑧継続性

	件数	割合
常時設置してほしい	55	34.6%
定期的に設置してほしい	96	60.4%
設置する必要はない	0	0.0%
わからない	5	3.1%
その他	3	1.9%
計	159	100.0%

- 「常時設置して欲しい」が60%を上回るなど、設置に肯定的な意見が9割を超えている。

⑦良かった点（複数回答可）

	件数	割合
屋台・カフェ	138	63.3%
交流・ふれあい	34	15.6%
休憩・談話室	20	9.2%
学習スペース	18	8.3%
特にない	2	0.9%
その他	6	2.8%
計	218	100.0%

- 「屋台・カフェ」が60%を上回り最も多い

⑨その他意見等

- 土日は会場前の通りの交通量が少なく、子どもとゆっくり楽しむことができた
- 駅を出てすぐに楽しそうな雰囲気を感じられるのが良かった
- 駅との動線を強化することで、さらなる賑わいに繋がると思う
- 飲食しながら、学習スペースを利用できるのが良かった
- 電気や水道といった設備が用意されれば、定期的に出店しやすくなる（出店者意見）



3 民間サウンディング調査結果

日時	令和7年8月～
民間事業者	ディベロッパー
内容	肥後大津駅 駅前施設整備について、民間事業者からの意見（民間ノウハウ・アイデア、行政に期待すること）等について調査

■ A社

① 参入可能性	・ 参入可能性あり
② 想定される施設需要（階数、面積など）	・ 1階：駅前広場機能、2階：商業、3階以上：ホテルをイメージ ※ホテルは100室・8階程度のイメージ ・ 町有地の借地となる場合、住居系は困難 ・ 駅への動線や視認性が確保された、駅と一体的な開発が重要
③ 事業推進上や施設運営上の課題	・ 駐車場の確保が必要となる（ホテルの駐車場100台程度＋数10台程度）
④ 町に期待する支援や配慮してほしい項目	・ 町が求める機能やより具体的な敷地が固まってきたら、見えてくる点もあると思われる（現時点では事業収支の検証等ができていない）
⑤ 事業化の時期	・ インバウンドを含めた乗降客数がどこまで伸びるか等による

■ B社

① 参入可能性	・ 参入可能性あり
② 想定される施設需要（階数、面積など）	・ 建物の規模は2～3階程度、2階以上は物販・カフェ・インフォメーション等のイメージ
③ 事業推進上や施設運営上の課題	・ 空港アクセス鉄道開通後に、通過駅にならないような配慮、取組みが必要
④ 町に期待する支援や配慮してほしい項目	・ 官民連携で建物を建て、テナントの一角を民間側が担うといったスキームの検討